

教科(科目)	国語（論理国語）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(文系・理系)
使用教科書	桐原書店『論理国語』				
副教材等	浜島書店『常用国語便覧』、尚文出版『常用漢字ダブルクリア』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- （2）論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- （3）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。
- ② 文章を的確に理解した上で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。
- ③ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析、 ・漢字テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	評論 論文の基本的な読み方を習得する。	4 「B 読むこと」	前田愛 「ベルリンの『内』と『外』」	・論文の基本的な読み方を習得する。 ・論理の展開を捉え、『舞姫』における都市空間と「豊太郎」の心情の表現の関わりを理解する。 ・論文の内容をきっかけとして、小説『舞姫』に関心を抱く。	5	ワークシート(記述の確認) 定期考査(内容分析) 発表の様子(行動の確認)
5	評論 評論の読み方に習熟する。	2 「B 読むこと」	高階秀爾 「オブジェとイメージ」	・二項対立による比較対照に着目し、評論の読み方に習熟する。 ・視覚でものを捉えるときの感覚的喜びを理解する。 ・筆者の主張を踏まえて、自分自身が芸術に触れる際の感性を磨く。	2	ワークシート(記述の確認) 定期考査(内容分析) 発表の様子(行動の確認)
5	中間考査				1	
5 6	評論 ・ 評論の読み方に習熟する。	4 「B 読むこと」	中村雄二郎 「言葉の〈意味〉と〈表徴〉」	・評論の読み方に習熟する。 ・言語論における基本的な考え方への理解を深める。 ・言語論を踏まえて、日本語や日本文化の問題について考察する。	5	ワークシート(記述の確認) 定期考査(内容分析)
	書く 評論の読み方に習熟する。	3 「A 書くこと」	吉見俊哉「知的創造のために」	・評論の読み方に習熟する。 ・「帰納」や「演繹」など評論特有の考え方に触れ、的確に理解する。 ・人間の身体と周囲の関係性に着目し、人間の存在についての認識を深める。	3	ワークシート(記述の確認) 定期考査(内容分析)
	書く 「書く」ことへの挑戦。	4 「A 書くこと」	小論文を書く レポートを書く	・「他者の視点を意識して」小論文を書くための手順を身につける。 ・自分自身の興味や関心に沿って、自ら問いを立て、その問いに答えるレポートの書き方を身につける。	4	課題提出(記述の点検)
6	期末考査				1	
7 8 9	評論 ・ 評論の読み方を習得する。	7 「B 読むこと」	坂口安吾 「日本文化私観」	・評論の読み方を習得する。 ・「伝統」「国民性」に対する筆者の批判について、理解する。 ・「日本人」「日本文化」とは何か、考える。	10	レポート(記述の点検) 定期考査(内容分析)
9	中間考査				1	

10 ・ 11	近代を見つめる ・ 表現について考 える。	6 「B 読む こと」	芥川龍之介 「侏儒の言葉」	・それぞれのアフォーリズムの内容について理解する。 ・アフォーリズムの持つ意味と表現力について考える。	6	レポート（記述の点検） 定期考査（内容分析）
	実用的な文章7	2 「A 書く こと」	志望理由書を書く	・志望理由の書き方を身につけるとともに、読む人の心を動かす文章について考える。	2	課題提出（記述の分析）
	実用的な文章 5、6、8	3 「B 読む こと」	・全国高校生「四字熟語」総選挙 ・プレゼンテーションソフトを活用して発表する ・ニュースを読む	・実用的な文章の基本的な読み方を習得する。 ・プレゼンテーションの特徴を把握し、わかりやすい表現方法やデザインを身につける。 ・メディアの違いによる伝え方の違いを読み取る。	6	ワークシート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
11	期末考査				1	
12 ・ 1 ・ 2	体験と思索 ・ 戦争や平和の問題 を考える。	3 「B 読む こと」	ドリアン助川 「沙魚」	・「沙魚」をめぐる初老の料理人とのやりとりを描いた文章を読んで、筆者の思索の推移をたどる。 ・東京大空襲を題材とした文章を読み、戦争や平和の問題について認識を深める。	3	ワークシートノート（記述の確認）
	評論 ・ 評論の読み方に 習熟する。	4 「B 読む こと」	平野啓一郎 「身体と出現」	・評論の読み方に習熟する。 ・「帰納」や「演繹」など評論特有の考え方に触れ、的確に理解する。 ・人間の身体と周囲の関係性に着目し、人間の存在についての認識を深める。	6	ワークシートノート（記述の確認）
	評論 ・ 評論の読み方に 習熟する。	3 「B 読む こと」	河野哲也 「真理の探求と 民主主義」	・評論の読み方に習熟する。 ・民主主義社会の特徴について考える。 ・我々が目指すべき民主主義のあり方について、自分の考えをまとめる。	3	レポート（記述の点検）
2 ・ 3	近代を見つめる ・ 人生について思 索する。	4 「A 書く こと」	三木清 娯楽について 「人生論ノート」 より	・評論の読み方を習得する。 ・筆者のいう「娯楽」の本質について理解する。 ・自分史を書き、人生について思索する。	5	課題提出（記述の分析）

計 64 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A 書くこと 13 時間	B 読むこと 36 時間
-----------------	-----------------	-----------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

言葉には、認識や思考を支える働きがあります。実社会に必要な知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力をつけましょう。言葉を通して他者や社会に積極的に関わり、進んで読書に親しみ、自己を向上させる姿勢を養いましょう。(担当：草間)

教科(科目)	国語（文学国語）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(文系)
使用教科書	桐原書店『探求 文学国語』				
副教材等	浜島書店『新訂版常用国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ④ 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めることを目指します。
- ⑤ 文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすることを目指します。
- ⑥ 作品の解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析、 ・漢字テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	小説 小説を読む 基本的な方法 を習得する。	6 「B読む こと」	宮本輝 「途中下車」	・小説の読み方を習得する。 ・場面の変化や時間の経過を捉えて物語の進行を的確に捉える。 ・行動と心情の理由を捉え、細やかな感情描写を読み味わう。	6	ワークシート(記述の確認) 定期考査(内容分析) 発表の様子(行動の確認)
5	詩 詩を読む基本 的な方法を習得する。	3 「B読む こと」	宮沢賢治 「永訣の朝」	・詩の読み方を習得する。 ・表現上の特色を捉え、詩の言葉が持つ魅力を発見する。 対照的な語句群に注意して、作品全体の構成を的確に捉える。	3	ワークシート(記述の確認) 定期考査(内容分析) 発表の様子(行動の確認)
5	中間考査				1	
5 ・ 6	短歌俳句 短歌を作る。	5 「A書く こと」	短歌を作る	・短歌に詠む内容をまとめる。 ・リズムや修辞などの表現に注意して短歌を作る。	5	課題提出(記述の点検)
	小説 小説の読み方 を習得する。	6 「B読む こと」	大岡昇平 「靴の話」	・小説の読み方を習得する。 ・作品に描かれた状況・人物・心情を、丁寧な読解作業を通して的確に捉える。 ・「事実」を正確かつ理性的に描き出していく文章表現の魅力を味わう。	6	ノート(記述の確認) 定期考査(内容分析)
	小説 小説の読み方 に習熟する。	4 「B読む こと」	別役実 「愛のサーカス」	・小説の読み方に習熟する。 ・「少年」と「少年という名のメカ」が象徴しているものはそれぞれ何かを理解する。 ・抑えめな章表現が生み出す効果を捉える。	4	ノート(記述の確認) 定期考査(内容分析)
6	期末考査				1	
7 ・ 8	小説 小説の読み方 に習熟する。	9 「B読む こと」	梶井基次郎 「檸檬」	・小説の読み方に習熟する。 ・青年期にある人物を主人公とした小説を丁寧に読み解き、人間というものに対する認識を深める。 ・比喩表現に注意し、たとえているものを明確にししながら、作者の表現力の豊かさを味わう。	9	レポート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)

9	随想 エッセイを書く。	8 「A 書くこと」	エッセイを書く。	・エッセイに書く内容をまとめる。 ・事実をありのままに、読み手の興味を引くように表現を工夫してエッセイを書く。	8	課題提出（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
9	中間考査				1	
10 ・ 11	文学評論 評論の読み方に習熟する。	10 「B 読むこと」	野崎歓 「サヨナラ」ダケガ人生だ	・評論の読み方に習熟する。 ・元の漢詩と井伏鱒二の翻訳とを読み比べ、味わいの違いとそれぞれの特徴を捉える。 ・外国文学を翻訳することの原則と可能性を理解する。	10	ノート（記述の確認） レポート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
	小説 短編小説を書く。	10 「A 書くこと」	短編小説を書く	・小説に書く内容をまとめる。 ・自分の個性を発揮し、構成や表現に工夫しながら、グループあるいは個人で小説を書く。	10	課題提出（記述の分析） 発表の様子（行動の確認）
11	期末考査				1	
12 ・ 1 ・ 2	文学評論 評論の読み方に習熟する。	10 「B 読むこと」	内田樹 「参加する観客」	・評論の読み方に習熟する。 ・映画から文芸にわたって展開される「作者論」「意味論」などを通じて、映画とはどのようなものかについての筆者の主張を読み取る。 ・生み出された作品自体の意味には「自分の解釈」も含まれることを理解し、鑑賞に役立てる。	10	ノート（記述の確認）
	小説 小説の読み方に習熟する。	10 「B 読むこと」	村上春樹 「氷男」	・小説の読み方に習熟する。 ・人物の関係性の変化とその理由を捉え、物語の展開との関連を理解する。 ・人物やその心情の変化の理由を想像し、自分なりの作品の鑑賞を深める。	10	ノート（記述の確認）
2 ・ 3	小説 小説の読み方に習熟する。	11 「B 読むこと」	森鷗外 「舞姫」	・小説の読み方に習熟する。 ・擬古文を用いた近代小説を読み味わうことにより、小説の多様な表現形式に触れる。 ・作品の背景にある時代と文化の状況について理解を深める。	11	ノート（記述の確認） 課題提出（記述の分析）

計 96 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A書くこと 23 時間	B読むこと 69 時間
-----------------	----------------	----------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「言葉」は時代を超えてリレーされ、培われてきました。他者の言葉、他の国の言葉、過去の言葉を受け止めながら、自らの感性を言語感覚を磨いていきましょう。生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手として、「言葉」のリレーを走るために。バトンは、今まさに皆さんの手の中にあります。(担当：草間)

教科(科目)	国語（古典探究）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(文系)
使用教科書	桐原書店『探求 古典探究古文編』『探求 古典探究漢文編』				
副教材等	数研出版『体系古典文法』、尚文出版『精選漢文』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ⑦ 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。
- ⑧ 古典などの理解を深める中で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。
- ⑨ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析、 ・漢字テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	日記 日記の理解 和歌の理解	5 「A 読む こと」	『蜻蛉日記』 「嘆きつつひと り寝る夜」	・文章の構成、展開の仕方について理解を深める。 ・作者の考えや目的、意図を捉えて解釈する。 ・当時の社会を考え、自分の意見をまとめる。	5	ノート(記述の点検) 定期考査(内容分析) 発表の様子(行動の確認)
5	史伝 史伝の理解 言葉の意味と由来	4 「A 読む こと」	『史記』 「四面楚歌」	・歴史に残る名場面を描いた史伝の魅力を味わう。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方を理解する。 ・四面楚歌について調べ、考えたことをまとめる。	4	ノート(記述の点検) 定期考査(内容分析) 発表の様子(行動の確認)
5	中間考査				1	
5 6	詩 ・長文の詩の理解 日本文学への影響	7 「A 読む こと」	白居易 「長恨歌」	・古詩の特徴について理解を深める。 ・長恨歌の日本文学への影響を知る。 ・鑑賞文を書き、暗唱して作品への理解を深める。	7	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
	歴史と伝記 歴史物語への理解 敬語の学習	5 「A 読む こと」	『大鏡』 「道長の豪胆」	・歴史物語の特徴を理解しながら内容を捉える。 ・敬語の理解を深め、知識を活用して内容を捉える。 ・登場人物の心情や人物像について理解を深める。	5	ノート(記述の点検) 課題提出(記述の確認)
	物語 文学史の理解 敬語の理解	5 「A 読む こと」	『源氏物語』 「葵の上と物の 怪」	・登場人物の行動や心情を、展開に即して読み取る。 ・『源氏物語』の構成や内容に関心を持つ。 ・敬語を正しく理解し、現代語訳に反映させる。	5	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
6	期末考査				1	
7 8	文章 ・唐宋八大家の理解 社会状況の理解	5 「A 読む こと」	柳宗元 「捕蛇者説」	・名文を読み、作者の物の見方や考え方を理解する。 ・「説」という文体と文中の表現の関連を理解する。 ・書かれた社会を理解して、自分の考えを深める。	5	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
9	物語 単語・文法の学習 文学史の理解	4 「A 読む こと」	『堤中納言物語』 「虫めづる姫君」	・人物の行動や心情を話の展開に即して読み取る。 ・物語の面白さを味わう。 ・『堤中納言物語』の文学史的な位置づけを理解する。	4	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
	評論 思想や批評 和歌の鑑賞	8 「A 読む こと」	『無名草子』 「小野小町」	・評論を読んで、作者の思想や批評を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・小野小町の和歌を鑑賞し、理解を深める。	8	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
9	中間考査				1	

10 ・ 11	評論 ・ 歌論の読解 文学史の理解	3 「A 読む こと」	『古今和歌集仮 名序』 「やまと歌よ」	・作者の思想を読み取る。 ・構成や展開に即して的確に捉える。 ・『古今和歌集』の文学史的な位置づけを理解する。	3	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	評論 和歌の学習 作者の思想	7 「A 読む こと」	『俊賴雜函』 「和歌の効用」	・和歌の効用を読み取る。 ・「やまと歌よ」の内容と関連づけて考える。 ・作者の思想について、自分の意見をまとめる。	7	ノート（記述の点検） 定期考査（内容分析）
	評論 和歌の修辞 和歌の鑑賞	8 「A 読む こと」	『無名抄』 「俊成自賛歌の こと」	・会話に注意しながら、内容を理解する。 ・和歌の修辞について理解を深める。 ・歌論中に取り上げられる和歌を鑑賞する。	8	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
11	期末考査				1	
12 ・ 1 ・ 2	思想 ・ 老子と道家思想 ・ 思想 ・ 荘子と道家思想	6 「A 読む こと」 8 「A 読む こと」	老子 「無用之用」 「大道廃有仁義」 荘子 「胡蝶之夢」 「混沌」	・老子と道家思想について理解する。 ・逆説的な論理展開に注意して内容を把握する。 ・儒家思想と比較し、老子の世界観について考える。 ・荘子と道家思想について理解する。 ・荘子の思想の、現代における意味を考える。 ・我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める。	6 8	レポート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認） レポート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
	思想 韓非子と法家思想	8 「A 読む こと」	韓非子 「侵官之害」	・韓非子と法家思想について理解する。 ・韓非子の説く法治主義を理解する。 ・理想的な政治のあり方について考えを深める。	8	レポート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
2 ・ 3	評論 ・ 古典と現代	9 「A 読む こと」	『風姿花伝』 「秘する花を知 ること」 『玉勝間』 「師の説になづ まざること」	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、自己を向上させる。 ・学問的随筆を読み、作者の思想や感情を読み取る。 ・古典の内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広めたり、深めたりする。	9	ノート（記述の確認） 課題提出（記述の分析）

計 96 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A「読むこと」 92 時間
-----------------	------------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「言葉」は時代を超えてリレーされ、培われてきました。他者の言葉、他の国の言葉、過去の言葉を受け止めながら、自らの感性を言語感覚を磨いていきましょう。生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手として、「言葉」のリレーを走るために。バトンは、今まさに皆さんの手の中にあります。(担当：草間)

教科(科目)	国語（古典探究）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(理系)
使用教科書	桐原書店『探求 古典探究古文編』『探求 古典探究漢文編』				
副教材等	数研出版『体系古典文法』、尚文出版『精選漢文』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ⑩ 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。
- ⑪ 古典などの理解を深める中で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。
- ⑫ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析、 ・漢字テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	日記 日記の理解 和歌の理解	4 「A 読む こと」	『蜻蛉日記』 「嘆きつつひと り寝る夜」	・文章の構成、展開の仕方について理解を深める。 ・作者の考えや目的、意図を捉えて解釈する。 ・当時の社会を考え、自分の意見をまとめる。	4	ノート(記述の点検) 定期考査(内容分析) 発表の様子(行動の確認)
5	史伝 史伝の理解 言葉の意味と由来	3 「A 読む こと」	『史記』 「四面楚歌」	・歴史に残る名場面を描いた史伝の魅力を味わう。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方を理解する。 ・四面楚歌について調べ、考えたことをまとめる。	3	ノート(記述の点検) 定期考査(内容分析) 発表の様子(行動の確認)
5	中間考査				1	
5 6	詩 ・長文の詩の理解 日本文学への影響	4 「A 読む こと」	白居易 「長恨歌」	・古詩の特徴について理解を深める。 ・長恨歌の日本文学への影響を知る。 ・鑑賞文を書き、暗唱して作品への理解を深める。	4	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
	歴史と伝記 歴史物語への理解 敬語の学習	4 「A 読む こと」	『大鏡』 「道長の豪胆」	・歴史物語の特徴を理解しながら内容を捉える。 ・敬語の理解を深め、知識を活用して内容を捉える。 ・登場人物の心情や人物像について理解を深める。	4	ノート(記述の点検) 課題提出(記述の確認)
	物語 文学史の理解 敬語の理解	4 「A 読む こと」	『源氏物語』 「葵の上と物の 怪」	・登場人物の行動や心情を、展開に即して読み取る。 ・『源氏物語』の構成や内容に関心を持つ。 ・敬語を正しく理解し、現代語訳に反映させる。	4	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
6	期末考査				1	
7 8	文章 ・唐宋八大家の理解 社会状況の理解	4 「A 読む こと」	柳宗元 「捕蛇者説」	・名文を読み、作者の物の見方や考え方を理解する。 ・「説」という文体と文中の表現の関連を理解する。 ・書かれた社会を理解して、自分の考えを深める。	4	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
9	物語 単語・文法の学習 文学史の理解	3 「A 読む こと」	『堤中納言物語』 「虫めづる姫君」	・人物の行動や心情を話の展開に即して読み取る。 ・物語の面白さを味わう。 ・『堤中納言物語』の文学史的な位置づけを理解する。	3	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
	評論 思想や批評 和歌の鑑賞	3 「A 読む こと」	『無名草子』 「小野小町」	・評論を読んで、作者の思想や批評を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・小野小町の和歌を鑑賞し、理解を深める。	3	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
9	中間考査				1	

10 ・ 11	評論 ・ 歌論の読解 文学史の理解	2 「A 読む こと」	『古今和歌集仮 名序』 「やまと歌よ」	・作者の思想を読み取る。 ・構成や展開に即して的確に捉える。 ・『古今和歌集』の文学史的な位置づけを理解する。	2	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	評論 和歌の学習 作者の思想	6 「A 読む こと」	『俊賴雜函』 「和歌の効用」	・和歌の効用を読み取る。 ・「やまと歌よ」の内容と関連づけて考える。 ・作者の思想について、自分の意見をまとめる。	6	ノート（記述の点検） 定期考査（内容分析）
	評論 和歌の修辞 和歌の鑑賞	6 「A 読む こと」	『無名抄』 「俊成自賛歌の こと」	・会話に注意しながら、内容を理解する。 ・和歌の修辞について理解を深める。 ・歌論中に取り上げられる和歌を鑑賞する。	6	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
11	期末考査				1	
12 ・ 1 ・ 2	思想 ・ 老子と道家思想 ・ 思想 ・ 荘子と道家思想	3 「A 読む こと」 3 「A 読む こと」	老子 「無用之用」 「大道廃有仁義」 荘子 「胡蝶之夢」 「混沌」	・老子と道家思想について理解する。 ・逆説的な論理展開に注意して内容を把握する。 ・儒家思想と比較し、老子の世界観について考える。 ・荘子と道家思想について理解する。 ・荘子の思想の、現代における意味を考える。 ・我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深める。	3 3	レポート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認） レポート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
	思想 韓非子と法家思想	4 「A 読む こと」	韓非子 「侵官之害」	・韓非子と法家思想について理解する。 ・韓非子の説く法治主義を理解する。 ・理想的な政治のあり方について考えを深める。	4	レポート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
2 ・ 3	評論 ・ 古典と現代	7 「A 読む こと」	『風姿花伝』 「秘する花を知 ること」 『玉勝間』 「師の説になづ まざること」	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、自己を向上させる。 ・学問的随筆を読み、作者の思想や感情を読み取る。 ・古典の内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広めたり、深めたりする。	7	ノート（記述の確認） 課題提出（記述の分析）

計 64 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A「読むこと」 60 時間
-----------------	------------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「言葉」は時代を超えてリレーされ、培われてきました。他者の言葉、他の国の言葉、過去の言葉を受け止めながら、自らの感性を言語感覚を磨いていきましょう。生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手として、「言葉」のリレーを走るために。バトンは、今まさに皆さんの手の中にあります。(担当：草間)

教科(科目)	地理歴史（地理探究）	単位数	4単位	学年(コース)	3学年(理系選択)
使用教科書	帝国書院 新詳 地理探究				
副教材等	帝国書院 新詳 地理資料 2024 データブックオブ・ザ・ワールド二宮書店 帝国書院 新詳地理探究演習ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ①地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ②地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
- ③進路実現に向けて、大学進学に対応できる知識・技能・思考力・読解力を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識>世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題などを理解できる。</p> <p><技能>「地理総合」で習得した地理的な技能を、「地理探究」で学ぶ内容に即して、さらに実践的な技能を身に付けようとしている。</p>	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力や、考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を養うことができる。</p>	<p>地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるようとしている。</p>

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト、定期考査の分析 ・準拠演習ノートやワークシートの確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の分析 ・準拠演習ノートやワークシートの確認 ・発言や発表の内容の分析 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <p>活動の様子を観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの確認 ・発言や発表の様子を観察 <p>などから、評価します。</p>
	<p>内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	1 地形	10	地形の成因 大地形 小地形	<ul style="list-style-type: none"> ・地形に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・地形に関わる諸事象について、場所の特徴や自然的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	<p>小テスト</p> <p>ワークシート</p> <p>グループ活動</p>
5	2 気候	16	気候の成り立ち 気候と生態系 世界の気候区分 気候変動と異常気象	<ul style="list-style-type: none"> ・気候に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・気候に関わる諸事象について、場所の特徴や自然的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 ・農林水産業に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・農林水産業に関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・農林水産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	<p>小テスト</p> <p>ワークシート</p> <p>グループ活動</p> <p>定期考査</p>
6	3 農林水産業		農業の発達と分布 農業の地域区分		

6	4 エネルギー・ 鉱産資源		エネルギー資源の種類と利用 化石燃料の分布と利用 電力の利用 鉱山資源の種類と利用	<ul style="list-style-type: none"> ・資源・エネルギーに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・資源・エネルギーに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・資源・エネルギーについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査
7	5 工業 6 交通・通信	1 3	工業の発達と種類 工業の立地 世界の工業地域 現代世界の工業の現状と課題 工業の知識産業化 世界を結ぶ交通情報 通信の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・工業に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 ・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸に関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・交通・通信について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	小テスト ワークシート グループ活動 レポート
8 9	7 観光 8 人口 9 人口問題	1 7	余暇の拡大と観光産業 世界の人口 人口の移動 世界の人口問題 日本の人口問題	<ul style="list-style-type: none"> ・観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 ・人口に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・人口に関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・人口について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査

10	10 村落と都市 11 都市・居住問題 12 衣食住 13 民族・宗教と民族問題 14 国家の領域と領土問題	1 6	都市の成立と形態・機能 都市圏の拡大と都市の構造 発展途上国の都市・居住問題 先進国の都市・居住問題 世界の衣服と食生活 世界の住居と衣食住の画一化 世界の民族・言語 世界の宗教 さまざまな民族問題	<ul style="list-style-type: none"> ・都市・村落などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・村落・都市について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求しようとする。 ・生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・生活文化、民族・宗教について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	小テスト ワークシート グループ活動
11	15 中国 16 韓国 17 ASEAN 諸国 18 インド 19 西アジアと中央アジア 20 北アフリカとサハラ以南アフリカ	1 6	中国の工業化と海外進出 韓国の歴史と生活文化 ASEAN 諸国の工業とその発展 急速な経済成長を支えた産業の発展 イスラームと人々の生活文化 歴史的な背景によって形成された多様な文化	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。 いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解する。 ・現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする 	小テスト ワークシート グループ活動
12	21 EU 諸国 22 ロシア 23 アメリカ合衆国 24 ラテンアメリカ 25 オーストラリアとニュージーランド	1 2	EU の成り立ちと結びつき 体制変化が産業にもたらした影響と課題 世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国 ヨーロッパの影響が強い社会 移民の歴史と多文化社会	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。 いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解する。 ・現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査

1 2 3	26 将来の国土 の在り方 27 持続可能な 日本の国土 像の探究	1 2	日本の強みと地理的 な課題 課題の把握 課題の追求 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。 ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。 ・持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする。 ・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。 ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。 ・持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする。 	小テスト ワークシート グループ活動
-------------	---	-----	---	--	--------------------------

計 1 2 8 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 单元ごとに定期考査・課題考査・小テストを行う。
- ・ 長期休業時に課題・ワークシートを提出 (別途指示)。
- ・ 主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

現代世界の系統地理的考察では世界の諸事象の規則性、傾向性を理解します。現代世界の地誌的考察では、世界の諸地域の構造や変容などを理解します。また、現代世界におけるこれからの日本の国土像では、現代日本に求められる国土像の在り方について構想します。地理情報システム (GIS) で2枚の地図を重ね合わせて地理的事象の分布の傾向性や規則性を理解したり、地域間の相互関連性などを理解しながら地理的な見方・考え方を習得します。そして、地理的な見方・考え方を活用し、地域の課題を考察し課題解決に向け構想します。地理では世界の構造を捉えていくことを心掛けましょう。世界の構造を把握すると未知の地理的事象 (行ったことのない知らない土地で行われていること) を類推することが可能になります。世界という空間の構成を捉え、グローバルに活躍できる力を身につけることを目指します。(担当: 山崎)

教科(科目)	地理歴史（地理応用）	単位数	4単位	学年(コース)	3学年(文系)
使用準教科書	帝国書院『高等学校新地理総合』 帝国書院『新詳高等地図』 実教出版『詳述公共』	帝国書院『新詳地理探究』 山川出版社『歴史総合近代から現代へ』 実教出版『詳述政治・経済』			
副教材等	とうほう『新編地理資料 2023』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有益な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多目的に考察したり、地理的な課題の皆解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に論議したりする力を養う。

(3) 地理に関わる諸事象に関して、歴史との関わりや政治・経済との関わりに着目して、科目横断的に学習し、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題追求や解決の活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有益な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知識) 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地理的特色や課題などを歴史的背景などと関連づけ理解しようとしている。</p> <p>(技能) 「地理総合」・「地理探究」で習得した地理的な技能を、「地理応用」で学ぶ内容に即して発展させ、さらに実践的な技能を身につけようとしている。</p>	<p>地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。</p>	<p>理的な課題を主体的に追求、解決しようとするとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通じて涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。</p>

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・定期考査の分析 ・レポートやワークシートの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・定期考査の分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・授業時における発言・グループ活動における役割などの確 <p>などから、評価します。</p>
	<p>内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	<p>地域区分</p> <p>地域の考察方法</p> <p>現代世界の諸地域</p> <p>中国</p> <p>韓国</p>	10	<p>地域区分の意義と指標</p> <p>政治体制と多様な民族</p> <p>中国の工業化と海外進出</p> <p>経済発展に伴うさまざまな課題</p> <p>韓国の歴史と生活文化産業の発展と生活の変化</p>	<p>・地域区分の方法を理解する。</p> <p>・地域の特徴を把握するための考察方法を理解する。</p> <p>・アジア地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて、地形や気候、産業やエネルギー問題、歴史や宗教と関連させながら理解する。</p> <p>・アジア地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定</p>	<p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>b</p>	<p>ワークシート</p> <p>グループ活動</p>

5	ASEAN 諸国 インド 西アジアと中央アジア	1 4	ASEAN 諸国の歴史と文化・民族 ASEAN 諸国の変化と課題 急速な経済成長を支えた産業の発展 増加する人口と農村の変化 イスラームと人々の生活文化	し、地域の特徴や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代世界のアジア地域について、よりよい社会の実現を視野にそこにみられる様々な課題を主体的に追求しようとする。	c	定期考査 ワークシート
6	北アフリカ・サハラ以南アフリカ EU 諸国	1 6	歴史的な背景によって形成された多様な文化 他地域との結びつきと人々の生活の変化 EUの成り立ちと結びつき 移り変わるEUの工業 EU拡大による影響と課題	・アフリカ地域にみられる地域的特色や課題などについて、歴史や環境問題などと関連させながら理解する。 ・アフリカの産業構造が、どのような地球的課題と結びついているか考察する。 ・EU 諸国にみられる地域的特色や課題などについて理解する。 ・地域統合により、ヨーロッパの農業や工業はどのように発展・変化したかについて、考察し表現する。	a b a b	ワークシート グループ活動
7	ロシア アメリカ合衆国	1 4	ロシアの成り立ちと体制変化 体制変化が産業にもたらした影響と課題 移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国 進展する科学技術と産業 多民族社会と移民増加に伴う課題	・ロシアにおける体制変化とそれがもたらした影響について理解する。 ・アメリカ合衆国の移民の歴史と特徴を理解し、多民族社会の課題や問題について考察する。 ・アメリカ合衆国の農業や産業の地域的特色を理解し、これらが世界に与える影響について考察する。	a b b	定期考査 小テスト

8 ・ 9	ラテンアメリカ オーストラリアと ニュージーランド	18	ヨーロッパの影響が 強い社会 大土地所有制と農業 の変化 工業化の進展と経済 発展 移民の歴史と多文化 社会 自然の恵みを生かし て発展した産業 強まるアジア・太平洋 圏との結びつき	<ul style="list-style-type: none"> ラテンアメリカ地域にみられる地域的 特色や地球的課題などについて、歴史や民 族構成・農業と農業と関連させながら理解 する。 オセアニア地域的特色や課題などにつ いて、歴史や自然環境などと関連させなが ら理解する。 オセアニア地域がどのようにアジア・太 平洋圏との結びつきを強めてきたか考察 する。 南北アメリカ、オセアニア地域につ いて、主題を設定し、諸資料を活用して、追 求したり解決したりする。 	a a b c	定期考査 小テスト ワークシート レポート
10	将来の国土の 在り方 持続可能な日 本の国土像の 探究	16	日本の強みと地理的 な課題 課題の把握 課題の追求 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 現代世界におけるこれからの日本の国 土像の探究とともに、我が国が抱える地理 的な諸課題の解決の方向性や将来の国土 の在り方などを構想することの重要性や、 探究する手法などについて理解する。 現代世界におけるこれからの日本の国 土像について、主題を設定し、我が国が抱 える地理的な諸課題の解決の方向性や、将 来の在り方などを多面的・多角的に探究 し、表現する。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 レポート発表 定期考査
11 12 1 2 3	問題演習 系統地理 現代世界の地誌	16 12 12	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境 資源と産業 人口、村落・都市 生活文化、民族・宗 教 アジア・アフリカ ヨーロッパ アメリカ オセアニア 	問題演習を通じて各項目の復習、及び大学入 学共通テスト対策	a b c	小テスト 定期考査

計128 時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに定期考査・小テストをおこなう。
- ・長期休業時に課題・ワークシートを提出 (別途指示)
- ・主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

地理応用は、1・2年生で学んだ地理の発展学習で、歴史的背景や政治経済と関連させながら、これまでの内容を深めたり発展させたりする授業です。地理を学ぶことによって、身近な問題から地球的な規模の課題や問題にも心を寄せ、持続可能な社会を築いていく一員として、どのように行動してゆけばよいのか共に考えてゆきましょう。

(担当：石黒)

令和6年度シラバス（地理歴史） 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	地理歴史（近現代日本史応用）	単位数	4単位	学年(コース)	3学年(文系選択)
使用準教科書	山川出版『詳説日本史』 山川出版『歴史総合近代から現代へ』				
副教材等	浜島書店『新詳日本史』 浜島書店『ゼミナール日本史』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>近現代の日本における社会的事象について、歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者たるべく、必要な公民としての資質・能力の育成を目指す。</p> <p>(1) 近現代の日本の歴史の展開について、様々な側面から、日本の近現代の歴史を大きく捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 近現代の日本の歴史事象について、自分の考えを論理的に説明・論述したり、考察・構想したことを議論する力を涵養する。</p> <p>(3) 多面的・多角的に考察したり、歴史の課題を把握するとともに、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>(1) 近現代の歴史事項と現在の日本の社会の関連性に着目し、自らの考えを述べることができる。</p> <p>(2) 近現代の日本と世界の動きが連動していることを理解し、自らの考えを述べることができる。</p> <p>(3) 諸資料を的確に読み取ることによって、近現代史の理解を深める。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉我が国の近現代の歴史の展開に関する諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する。</p> <p>〈技能〉諸資料から我が国の近現代の歴史に関する様々な情報を適切</p>	<p>我が国の近現代の歴史の展開に関わる諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史</p>	<p>我が国の近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我</p>

かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるようとしている。
-------------------------	---	--

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
評価の観点	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査・小テストの分析 レポートやワークシートの内容確認 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査・小テストの分析 レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 授業時における発言・グループ活動における役割などの確認

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	1 近世から近代へ	10	開国と幕末の動乱 幕府の滅亡と新政府の発足	<ul style="list-style-type: none"> 開国と開港による日本のさまざまな変化について理解する。 江戸幕府の滅亡と新政府成立の過程について理解する。 近世から近代への時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
5	2 近代国家の成立	10	明治維新と富国強兵 立憲国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> 明治維新に関する資料を基に、新政府が目指した国づくりの目標・過程・内容についての課題を設定し、国内の政治の変容について考察し、表現する。 民権論と国権論に着目しながら、明治政府が立憲国家を成立させた過程と自由民権運動における政治参加に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。関連する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を立てて表現する。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査

6	3 近代国家の展開	14	日清・日露戦争と国際関係 第一次世界大戦と日本 ワシントン体制	<p>・日清戦争と日露戦争により、日本の国際関係の進展に関わる課題を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義や関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、条約改正の過程との関連性について理解する。</p> <p>・第一次大戦と日本の学習について取り組むとともに、諸事象の解釈を表現することを通して、ヴェルサイユ=ワシントン体制及びアジアと欧米諸国との関係の変容を理解する。</p>	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
7	4 近代産業と生活	14	近代産業の発展 近代文化の発達 市民生活の変容と大衆文化	<p>・近代産業の発展に関わる課題を設定し、資料を用い、事象の意味や意義・関係性などを多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、明治期の産業の発展と資本主義社会の成立について理解する。</p> <p>・近代文化の発達と教育制度の整備に関わる課題を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、文化の発展と市民生活の変化及び大衆文化の普及について理解する。</p>	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 レポート
8 9	5 恐慌と第二次世界大戦	8	恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦	<p>・昭和恐慌と軍部の台頭に関わる課題を設定し、資料を用いて事象の意味や意義・関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、昭和恐慌前後の経済政策と軍部台頭の関わりについて理解する。</p> <p>第二次世界大戦の学習について、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会及び国民生活の変容を理解する。</p>	a b c	小テスト ワークシート グループ活動

10	6 占領下の日本	28	占領と改革 冷戦の開始と講和	<p>・占領と日本国憲法の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、占領下の政治と日本国憲法の成立について理解する。</p> <p>・冷戦の開始と講和に関わる課題を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義・関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して冷戦の開始と日本の講和について理解する。</p>	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
11	7 高度経済成長の時代	32	55年体制 経済復興から高経済成長へ	<p>・保守勢力と革新勢力のあり方から、戦後の政治の変遷についての理解を深める。</p> <p>・経済復興から高度経済成長の学習について理解を深めるとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、日本の再出発及びその後の経済発展を理解する。</p> <p>・政治の安定と経済の発展に着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。</p>	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
12 1	8 激動する世界と日本	12	経済大国への道 冷戦の終結と日本社会の変容	<p>・激動する世界と日本に関わる課題を設定し、資料を用いて事象の意味や意義・関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、20世紀末の世界と日本の動きについて理解する。</p> <p>・新しい国際秩序と日本の課題の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。</p>	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・小單元ごとに小テストを実施する。
- ・大單元ごとに定期考査を実施する。
- ・長期休業時に課題・ワークシートを提出する。
- ・主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

日本史は教科書が厚く、学ぶべき事項が多岐に渡る。ある程度の歴史事項の暗記を避けて通ることはできないが、歴史の流れを理解するとともに、過去の出来事が現在とも関連していることを理解し、世界の中における日本の存在を認識して欲しい。(湧井)

教科(科目)	政治・経済	単位数	単位	学年(コース)	学年(文系・理系)
使用教科書	『詳述政治・経済』（実教出版株式会社）				
副教材等	「最新政治・経済資料集2024」（第一学習社）、「ニューコンパスノート政治・経済(2024年度版）」（とうほう）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を解決に向けて構想する活動を通して、公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解し、諸資料から情報を適切かつ効果的に収集し活用する技能を身に付けるようにする。

(2) 選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、議論し公正に判断して合意形成や社会参画に向かう力を養う。

(3) 現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、国民主権を担う公民としてより積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

3 指導の重点

(1) 選択・判断の基準として必要な基本的事項の知識の蓄積を目指します。

(2) 様々な事柄の本質・特質を知識としてしっかり身に付け、実社会で起こる問題と関連させて考察することで、主体的に課題を解決することができる態度を確立させることを目指します。

(3) 物事を広い視野に立って、多面的・多角的に考察し表現する態度を確立させることを目指します。

(4) 問題演習を通して、資料を活用する技能と考察したことを言語化してまとめる力を発揮させることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解している。 ・ 諸資料から情報を適切かつ効果的に収集し活用する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主権者として現代社会における課題を多面的・多角的に考察、構想し、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸課題について主体的に追究して、意欲的に解決しようとしている。 ・ よりよい社会の実現のために現代社会の課題について多面的・多角的に考察、構想したことを社会生活に生かそうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト、定期考査の分析 ・ワークシート、演習ノートなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、演習ノートなどの提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ワークシート、演習ノートなどの提出物の内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	民主政治の基本原理	1. 政治と法 2. 民主政治と人権保障の発展 3. 国民主権と民主主義の発展 4. 世界の政治制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳や社会規範との違いから多面的・多角的に考察する。 ・ 民主政治の意義と課題について理解する。 	4	発表の様子 (行動の確認) 小テスト
5	日本国憲法の基本的性格	1. 日本国憲法の成立 2. 平和主義 3. 基本的人権の保障 4. 人権の広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国憲法の特徴を理解する。 ・ こんにちの安全保障政策の課題について理解する。 	6	定期考査 ワークシート (記述の確認)
6		日本の政治機構	1. 立法 2. 行政 3. 司法 4. 地方自治	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衆参両院の構成と衆議院の優越について理解する。 ・ 戦後の地方自治の課題や地方分権改革について理解する。 	12
7	現代日本の政治	1. 戦後政治の歩み 2. 選挙制度 3. 政治参加と世論	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各選挙制度の特徴について理解する。 	6	発表の様子 (行動の確認) 小テスト
8	経済社会の変容	1. 経済活動の意義 2. 経済社会の形成と変容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資本主義経済が成立、発展してきた時代背景を確認する。 	10	発表の様子 (行動の確認) 小テスト 定期考査
9		現代経済のしくみ	1. 市場機構 2. 現代の企業 3. 国民所得と経済成長 4. 金融のしくみ 5. 財政のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産の主体である企業の形態や活動、株式会社の特色、企業の経営環境の変化や課題などについて理解する。 	12
10	現代経済と福	1. 経済の停滞と再生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的な事象が日本経済に与えた 	8	発表の様子

1 1	社の向上	2. 日本の中小企業と農業 3. 国民の暮らし 4. 環境保全と公害防止 5. 労使関係と労働条件の改善 6. 社会保障の役割	影響を、統計資料を基に考える。 ・持続可能な社会をめざすためのさまざまな制度や取り組みについて理解する。		(行動の確認) 小テスト 定期考査
1 2 1	現代日本における諸課題の探究	地域社会の自立と政府 防災と安全・安心な社会の実現 歳入・歳出両面での財政健全化 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化	・具体的な地域を設定して、政治的な課題と経済的な課題について検討する。	1	発表の様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認)
	現代の国際政治	1. 国際政治の特質と国際法 2. 国際連合と国際協力 3. 現代国際政治の動向 4. 核兵器と軍縮 5. 国際紛争と難民 6. 国際政治と日本	・国際政治や国際法について理解する。 ・国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について考察する。	2	発表の様子 (行動の確認) 小テスト
	現代の国際経済	1. 商品・資本の流れと国際収支 2. 国際経済体制の変化 3. グローバル化と金融危機 4. 地域経済統合と新興国の台頭 5. 地球環境とエネルギー 6. 経済協力と人間開発の課題	・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解する。	2	発表の様子 (行動の確認) 小テスト
2 3	国際社会の諸課題の探究	紛争の解決に向けた国際社会の取り組み グローバル化にともなう人々の生活や社会の変容 持続可能な国際社会づくり	・取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述する。	1	発表の様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認)

計64時間(55分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに小テストを実施します。
- ・授業の最後に振り返りシートを入力します。
- ・必要に応じて授業のワークシートや演習ノートを提出してもらいます。

8 担当者からの一言

授業を大切に、予習・復習の時間を短くしましょう。社会の中で生きるために必要な知識と考え方を身に付けてください。

学習方法について、

- (1) 予習について ①教科書を読み、次の授業範囲に該当する箇所を把握する。②分からない理論、用語等について、調べておく。
- (2) 授業について ①教科書を中心に授業を展開するので、授業の中で単元を理解する。②資料集を活用し、より理解を深めていく。
- (3) 復習について ①演習ノート「ニューコンパスノート政治・経済」を活用し、整理ノートを作成する。②「ニューコンパスノート政治・経済」を活用し、問題演習に取り組む。

(担当：高橋陽子)

令和6年度シラバス (公民) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	公民(公共総合)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用準教科書	実教出版『詳述公共』、山川出版社『歴史総合近代から現代へ』、帝国書院『高等学校新地理総合』『新詳高等地区』				
副教材等	浜島書店『最新図説公共』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>歴史的・地理的観点を含めた人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 現代の諸課題を考察・判断するための手掛かりとなる概念や理論を、歴史的・地理的観点を含めた多面的なものとして理解する。また、諸資料から情報を適切かつ効果的に調査し整理・分析する技術を身に付ける。</p> <p>(2) 現代の諸課題について歴史的・地理的背景を踏まえつつ事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、協働的に考察し、それを踏まえて自分の考えをまとめて説明や論述をする力を養う。</p> <p>(3) 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して地域社会や国家、国際社会の一員として具体的に社会に関わる自覚を深める。</p>

3 指導の重点

<p>(1) 公民科目「公共」の「持続的可能な社会づくりの主体となる私たち」を軸に、現代社会における事象の中に興味関心を持った課題を見出す。</p> <p>(2) 関連する資料を読み取りながら公共・歴史・地理的観点を交えて解決策を考察する。</p> <p>(3) 議論を通して考えを深めて、それまでの考察や議論をもとに個々に解決策をまとめ上げて、スライドなどを活用して表現する。</p>

4 評価の観点の趣旨

評価は次の観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について、必要な知識を習得している。 ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について、必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが選択した現実社会の諸課題について問いを見いだし、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に、それぞれが選択した現実社会の諸課題に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から、それぞれが選択した現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

4 評価方法

評価は次の観点から行います。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・レポート、提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析

5 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	1. 人間としてよく生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と平等 ・自由・権利と責任・義務 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的・地理的な背景に基づき、人間の尊厳や平等についての課題を発見し、個人・グループ学習等により考察する。 	13	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループワーク ・発表 ・振り返り
6 7	2. 日本国憲法の基本的性格	<ul style="list-style-type: none"> ・立憲主義 ・平和主義 ・基本的人権の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的・地理的な背景に基づき、平和主義や人権保障等についての課題を発見し、個人・グループ学習等により考察する。 	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループワーク ・発表 ・振り返り
8 9	3. 日本の政治機構と政治参加 4. 現代の経済社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治 ・選挙 ・財政 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的・地理的な背景に基づき、地方自治や選挙制度についての課題を発見し、個人・グループ学習等により考察する。 ・歴史的・地理的な背景に基づき、財政についての課題を発見し、個人・グループ学習等により考察する。 	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループワーク ・発表 ・振り返り
10 11	5. 経済活動の在り方と国民福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業と農業 ・消費者問題 ・労働問題 ・少子高齢社会と社会保障 ・環境問題 ・領土問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的・地理的な背景に基づき、消費者問題等についての課題を発見し、個人・グループ学習等により考察する。 	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループワーク ・発表 ・振り返り

12	6. 国際政治の 動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・集団安全保障 ・軍縮・核廃絶 ・難民問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的・地理的な背景に基づき、領土問題等についての課題を発見し、個人・グループ学習等により考察する。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループワーク ・発表 ・振り返り
1 2	7. 国際経済の 動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域的経済統合 ・南北問題 ・SDG s の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的・地理的な背景に基づき、SDG s の達成等についての課題を発見し、個人・グループ学習等により考察する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループワーク ・発表 ・振り返り

計 64 時間 (55 分授業)

6 課題・提出物等

- ・各単元の課題探究レポートを作成し提出する。
- ・各単元での課題探究の成果を発表する。

7 担当者からの一言

この授業では、1・2年生の地歴公民科目や他教科で学んできたことを踏まえつつ、現代社会での事象に興味関心を持ってとらえて、その中から自分取り組みたい課題を見出して、データ等を調べて分析し他の人の考えを聞いて取り入れながら自分なりの解決策を考える力を養います。また、自分の考えを表現する力も身に付けます。これらの力は、これからの大学入試や働く場面においては必要不可欠なものです。普段から新聞などのニュースに触れて関心を持って、知識を蓄えて自分なりの考えを持ちましょう。(担当：高橋陽子)

令和6年度シラバス（ 数学Ⅲ ） 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	数学(数学Ⅲ)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	新編 数学Ⅲ(数研出版)				
副教材等	3TRIAL 数学Ⅲ+C(数研出版)、基礎問題(東京書籍)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

- ①基礎的・基本的な知識及び技能を着実に身に付けることを目指します。
- ②事象を数学的に考察する能力を培うことを目指します。
- ③数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てます。
- ④数学を通して、粘り強く物事に取り組む態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、課題考査の分析 ・小テストの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、課題考査の分析 ・小テストの分析 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取組の観察 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	第1章 関数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	9	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、課題考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況
6 7	第2章 極限	第1節 数列の極限 1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数 第2節 関数の極限 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性 課題学習	9 12	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、課題考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況
8 9 10	第3章 微分法	第1節 導関数 1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 第2節 いろいろな関数の導関数 3 いろいろな関数の導関数 4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数	8 8	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、課題考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況

11	第4章 微分法の応用	第1節 導関数の応用	10	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、課題考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況
		1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値と変化 4 関数のグラフ 第2節 いろいろな応用	7	
12		5 方程式、不等式への応用	1	
		6 速度と加速度 7 近似式 課題学習		
1	第5章 積分法とその応用	第1節 不定積分	8	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト ・週末課題の取り組み状況 ・問題集の取り組み状況
		1 不定積分とその基本的性質 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分 第2節 定積分	10	
2		4 定積分とその基本的性質	12	
		5 置換積分法と部分積分法 6 定積分のいろいろな問題		
3		第3節 積分法の応用	1	
		7 面積 8 体積 9 道のり 10 曲線の長さ 課題学習		

計 96 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

平日：その日の授業で習った内容の 3 TRIAL 問題に取り組む。 → 定期的 (1 ヶ月に 1~2 回) に提出する。
 週末：週末課題で指定された__の問題に取り組む。 → 週明けに提出する。
 長期休業：学期で学習した内容に関する課題に取り組む。 → 休業明けに提出する。テストも行う。
 数学は復習が最も重要です。問題を一定期間おいて何度も解き、解法を習得することが必要です。

8 担当者からの一言

数学Ⅲは数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの知識があることが前提で話が進みます。しっかりと復習しておいてください。授業内容は極力その日のうちに理解するように心がけてください。わからないことがある場合は授業中に質問するか、休み時間や放課後を使って遠慮なく先生方へ質問してください。そして、何より大切なことは、わからないところを自分で時間をかけてしっかり考えることです。

(担当：小島 瑞希)

令和6年度シラバス (数学C) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	数学 (数学C)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 文系
使用教科書	新編 数学C (数研出版)				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・リンク数学演習 I・A+II・B・C受験編 approach+basic+challenge+development (数研出版) ・共通テスト実戦問題 パックV 数学II・B (数研出版) ・3TRIAL 数学C (数研出版) 				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>(1) 数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。</p> <p>(2) 事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。</p> <p>(3) 数学の良さを認識するとともに、それらを積極的に活用し、事象を数学的論拠に基づいて判断できる。</p>

3 指導の重点

<p>ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構成に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構成に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
	内容のまとめりにごとき、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりにごときの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積	1 1	課題考査
5 6		第2節 ベクトルと平面図形 5 位置ベクトル 6 ベクトルの図形への応用 7 図形のベクトルによる表示	1 1	中間考査
7 8 9	空間のベクトル	1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 ベクトルの図形への応用 6 座標空間における図形	1 4	期末考査 課題考査

10 11	複素数平面	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	2 0	中間考査
12	式と曲線	第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線	2 0	期末考査
1		第2節 媒介変数表示と極座標 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式 8 コンピュータの利用	8	課題考査
2	数学的な表現の工夫	1 データの表現方法の工夫 2 行列による表現 3 離散グラフによる表現 4 離散グラフと行列の関連 ※文系と理系は同等の内容を扱うが、理系においては発展的な内容を追加する。	1 2	期末考査

計96時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

平日 授業の時に解けなかった問題を解き、次にその日に学習した授業範囲の3 TRIAL問題を解く。
週末 週末課題で指定された課題を解く。さらに、その週に学習した内容の3 TRIALで大切なところや解けなかったところをもう一度(2回目)解いてみる。
数学は復習が最も重要である。問題を一定期間おいて何度も解き、解法を習得することが必要である。

8 担当者からの一言

授業内容は極力その日のうちに理解するように心がけてください。わからないことがある場合は授業中に質問するか、休み時間や放課後を使って遠慮なく先生方へ質問してください。そして、何より大切なことはわからないところを自分で時間をかけてしっかり考えることです。

(担当: 小島 瑞紀)

教科(科目)	数学 (数学C)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 理系
使用教科書	新編 数学C (数研出版)				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・リンク数学演習 I・A+II・B・C受験編 approach+basic+challenge+development (数研出版) ・共通テスト実戦問題 パックV 数学II・B (数研出版) ・3TRIAL 数学C (数研出版) 				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> (1) 数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。 (2) 事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。 (3) 数学の良さを認識するとともに、それらを積極的に活用し、事象を数学的論拠に基づいて判断できる。
--

3 指導の重点

ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構成に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構成に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
	内容のまとめりにごとき、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりにごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積	7	課題考査
5 6		第2節 ベクトルと平面図形 5 位置ベクトル 6 ベクトルの図形への応用 7 図形のベクトルによる表示	7	中間考査
7 8 9	空間のベクトル	1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 ベクトルの図形への応用 6 座標空間における図形	9	期末考査 課題考査

10 11	複素数平面	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	1 4	中間考査
12	式と曲線	第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線	1 4	期末考査
1		第2節 媒介変数表示と極座標 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式 8 コンピュータの利用	5	課題考査
2	数学的な表現の工夫	1 データの表現方法の工夫 2 行列による表現 3 離散グラフによる表現 4 離散グラフと行列の関連 ※文系と理系は同等の内容を扱うが、理系においては発展的な内容を追加する。	8	期末考査

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

平日 授業の時に解けなかった問題を解き、次にその日に学習した授業範囲の 3 T R I A L 問題を解く。
週末 週末課題で指定された課題を解く。さらに、その週に学習した内容の 3 T R I A L で大切なところや解けなかったところをもう一度 (2回目) 解いてみる。
数学は復習が最も重要である。問題を一定期間おいて何度も解き、解法を習得することが必要である。

8 担当者からの一言

授業内容は極力その日のうちに理解するように心がけてください。わからないことがある場合は授業中に質問するか、休み時間や放課後を使って遠慮なく先生方へ質問してください。そして、何より大切なことはわからないところを自分で時間をかけてしっかり考えることです。

(担当: 小島 瑞紀)

教科(科目)	数学(数学総合I)	単位数	単位	2	学年(コース)	3年生(文系)
使用準教科書	新編 数学I (数研出版) 新編 数学A (数研出版)					
副教材等	新課程リンク数学演習I・A+II・B・C (数研出版) 共通テスト対策【実力養成】数学I・A 30分演習改訂版					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせて、数学的活動を通じて、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して社会の事象などから設定した問題に対して、相互に関連付けて論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

3 指導の重点

<p>数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数、確率及び図形について、技能の習熟を図り、関連付けた発展的内容に取り組むことで、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、数学的に考える資質・能力を高める。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。</p>	<p>・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。</p>	<p>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。</p> <p>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。</p>

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
評価の 観点	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価 方法	評価の割合 40/100点 小テスト・課題提出 10% 考查点 90%	評価の割合 40/100点 小テスト・課題提出 10% 考查点 90%	評価の割合 20/100点 各観点での振り返りへの取り組み状況・授業態度 100%

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
1 学 期	数と式 (I)	3	複数の文字を含む因数分解 絶対値を含む不等式	【知識・技能 a】 基本的な概念、原則・法則を理解し、知識を身につけて、それらを利用し、的確に処理・表現することができる。 【思考力・判断力・表現力 b】 問題を多面的に見たりして、いろいろな問題の事象の考察に活用することができる。 【主体的に取り組む態度 c】 各単元での振り返りにより、学習内容が理解できる。学習内容を応用問題への考察に活用し、積極的に考え方を伝えている。	課題考查
	集合と命題 (I)	2	集合の要素の決定 背理法による証明		中間考查
	2次関数 (I)	4	最大・最小からの係数決定 2次方程式の解の存在範囲		
	図形の計量 (I)	1 4	三角形と正弦の比 三角形の外接円、内接円 円に内接する四角形の面積 測量への応用		
	データの分析 (I)	2	箱ひげ図に関する正誤問題 変数の変換		
	場合の数と確率 (A)	3	組合せの方法の数 最短経路の数 反復試行と点の移動 原因の確率		
2 学 期	図形の性質 (A)	1 4	4点が1つの円周上の証明 正多面体の体積	期末考查 課題考查	
	数学I A 総演習	9 13	様々な分野の応用問題を分野横断的にグループで相談しながら、問題解決能力を養う。	中間考查 期末考查	
3 学 期	探究課題	14	[課題学習]		
		4	他の単元との関連について考え、さまざまな別解を考えることで総合的かつ多角的に課題を扱う。	期末考查	

6 課題・提出物等

- ・定期考査ごとに課題の取組を点検します。
- ・提出物（タブレットに配信した課題も含まれます）への取組を点検します。

7 担当者からの一言

数学総合 I では、1 学年に履修した数学 I ・ A の内容を復習し、発展的な問題を解く力を養っていきたいと思います。問題を 1 回だけ解けば身につくものではありませんので、家庭での復習を大切にして力をつけていってください。

教科(科目)	理科(物理)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(理系)
使用教科書	数研出版『物理』				
副教材等	数研出版『リードLight ノート物理』 河合出版『物理のエッセンス 力学・波動』 『物理のエッセンス 熱・電磁気・原子』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

(1) 法則や公式を理解もせず丸暗記するのではなく、導出過程および意味を重視する。

(2) 実験や観察などを通して、物理現象の具体的・体験的理解の場をつくる。

(3) 物事を筋道立てて、論理的に思考する力を伸ばしていく。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	・物理的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	・物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	[光] 3. 光の干渉と回折	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングの実験, 回折格子, 薄膜, くさび形空気層, ニュートンリングで光が干渉する理由を説明できる。 ・クーロンの法則を理解し, 帯電体間に働く力や電場がベクトル量として扱うことができる。 	6	定期考査 小テスト 提出物
5	[電場] 1. 静電気力 2. 電場			8	
6	[電場] 3. 電位	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・電場と電位の関連性を理解し, ようすを電気力線と等電位面を用いて表すことができる。 ・外部から電気力線を加えても, 導体の内部には電気力線が入りこめない理由(静電遮蔽)を理解できる。 	8	定期考査 小テスト 提出物
	4. 物質と電場			6	
7	[電場] 5. コンデンサー	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・平行版コンデンサーの充電のメカニズムやそのエネルギーを説明することができる。 ・電流や電気抵抗の意味の理解から, オームの法則や電力, 電気量, ジュール熱の式を導くことができる。 ・キルヒホッフの法則を正しく理解し, 各種の回路計算を行うことができる。 ・半導体のキャリアを理解し性質の違いを判断できる。 	6	定期考査 小テスト 提出物
	[電流] 1. オームの法則			4	
8	2. 直流回路			4	
9	3. 半導体			2	
	[電流と磁場] 1. 磁場 2. 電流のつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力		<ul style="list-style-type: none"> ・直線電流, 円形電流, ソレノイドのつくる磁場についての公式を使うことができる。 ・「透磁率」, 「比透磁率」, 「磁束密度」, 「磁束」の意味を理解している。 ・磁場中を運動する荷電粒子の運動がどのようになるか判断できる。 	2	
10	[電子誘導と電磁波] 1. 電磁誘導の法則 2. 交流の発生 3. 自己誘導と相互誘導 4. 交流回路 5. 電磁波	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・電磁誘導の法則を用いて誘導起電力の大きさを求めることができる。また, レンツの法則を用いて誘導起電力の向きを判断することができる。 ・コイル・コンデンサーのリアクタンスについて理解している。また, 電気振動におけるコイルの磁場とコンデンサーの電場変化のようすを説明できる。 	4	定期考査 小テスト 提出物
	11			[電子と光] 1. 電子	
2. 光の粒子性		<ul style="list-style-type: none"> ・光電効果の実験結果を光量子説で説明できる。 	2		
3. X線	<ul style="list-style-type: none"> ・X線の発生機構が理解できる。 	2			
4. 粒子の波動性	<ul style="list-style-type: none"> ・発生する最短波長を導き出す過程が説明できる。 	2			

12	[原子と原子核] 1. 原子の構造とエネルギー準位 2. 原子核 3. 放射線とその性質 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の発するスペクトルは、原子核のまわりを回る電子がとびとびのエネルギー準位をもつことから説明されることを理解している。 ・極小の物体からなる核子どうしが堅く結びついてることについて、万有引力や電磁気力では説明できない理由を説明できる。 ・α線、β線、γ線の正体や、α崩壊、β崩壊のしくみが理解できている。 ・核分裂反応・核融合反応について定性的・定量的に理解している。 ・さまざまなハドロンがどのクォークで構成されているかを調べ、それらの電気量の値をクォークの種類より算出できる。 	2 2 2 2 2	小テスト 提出物
1 2 3	[課題学習] 物理全体の学習を通じて、各種の演習問題を解くことで、より深い理解を得る。	教科書 副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・物理法則を深く理解し、自然現象を物理的に考察できる。 また、数式で表現できる内容かどうかを判断し、できる場合は的確に表して、事物現象を考察できる。 	10	小テスト 提出物

計96時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業は適宜、長期休業中は課題テストを前提とした課題を課す。
- ・考查毎に副教材のリード Light ノート物理の提出を、実験にはレポートの提出を義務づける。

8 担当者からの一言

物理は自然現象に潜む法則を発見し、それを未知の現象の解明に適用していく学問です。17世紀のニュートン以降、物理学は自然への探求活動とともに実験を通して発展し、その成果は科学技術の革新をもたらしました。高校では既に発見された法則をもとにして、力学や電磁気学など、分野ごとに体系づけられた理論について学習していきます。先人たちの知恵を学び、新たな視野を広げていきましょう。

令和6年度シラバス (理科) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	理科 (化学)	単位数	4単位	学年(コース)	3学年(理系)
使用教科書	東京書籍『化学 vol.1 (理論編)』『化学 vol.2 (物質編)』				
副教材等	実教出版『アクセスノート化学』 第一学習社『セミナー化学基礎+化学』				

1 学習目標

<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

2 指導の重点

<p>① 化学の基本的な概念や原理・法則についての理解を目指します。</p> <p>② 化学の基本的な概念や原理・法則を科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得を目指します。</p> <p>③ それらを的確に表現できることを目指します。</p>
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画

月	単元名と領域	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	4編 無機物質 1章 周期表と元素	<ul style="list-style-type: none"> 化学基礎での学習を元に、周期表の分類について理解する。 IUPAC 勧告のさまざまな分類について知る。 	2	知 周期表中の元素を正しく分類することができる。 態 IUPAC の分類方法を知ろうとしている。
	2章 非金属元素の単体と化合物 1節 水素とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> 水素の単体の製法・性質と用途を理解する。 非金属元素の水素化合物の分子の形を、族で系統づける。 	2	知 水素の製法・性質・用途を正しく理解している。 思 周期表の族を元に水素化合物の分子の形を理解しようとしている。
	2節 貴ガス	<ul style="list-style-type: none"> 貴ガスがほとんど化合物を作らず、単体の融点や沸点が原子量の増加とともに大きくなることを周期表から系統づける。 	2	思 18 族の特徴を理解し、その性質を正しく説明できる。
	3節 酸素とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> 酸素の製法について確認する。 ヨウ化カリウムデンプン紙の原理について理解する。 オキソ酸について理解し、同周期元素のオキソ酸の酸の強さを周期表をもとに説明できる。 	2	知 酸素の製法・性質・用途を正しく理解している。 思 ヨウ化カリウムデンプン紙が酸化作用の確認に使われることを説明できる 思 オキソ酸の特徴を理解し、その性質を正しく説明できる。
	4節 ハロゲンとその化合物	<ul style="list-style-type: none"> 塩素 Cl₂ の単体の製法・性質について理解する。 臭素 Br₂, ヨウ素 I₂ の性質について理解する。 実験1 ハロゲン(Cl, Br, I)の酸化力を比較しようを行い、ハロゲンの酸化力の強弱を理解する。 ハロゲン化水素の特徴を理解し、フッ化水素が弱酸である理由を考えようとしている。 実験2 塩素系漂白剤と酸素系漂白剤を比較してみようを行い、それぞれの性質の違いを確認する。 	4	知 ハロゲンの単体について正しく理解している。 思 ハロゲンの酸化力に関する実験を行い、酸化力の違いについて説明できる。 態 フッ化水素が他のハロゲン化水素と性質が異なる理由を考えようとしている。 態 身近にある漂白剤の違いを確認し、その反応についてまとめようとしている。
	5節 硫黄とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> 硫黄の単体、硫化水素、二酸化硫黄の製法・性質について理解する。 実験3 二酸化硫黄の性質を演示し、酸化還元反応について確認を行う。 接触法の流れと利用する触媒を確認する。 実験4 濃硫酸の性質を調べてみようを行い、濃硫酸の脱水作用と溶解熱について理解する。 濃硫酸と希硫酸の性質の違いを確認し、希硫酸の調製について理解する。 	3	知 硫黄の単体、および化合物の製法・性質を正しく理解している。 思 二酸化硫黄に関する実験を通して、酸化還元反応について説明することができる。 知 接触法の特徴を理解している。 態 濃硫酸の性質に関する実験を行い、その特徴を理解している。 思 希硫酸の調製方法を理由とともに説明できる。

	6節 窒素・リンとその化合物	<ul style="list-style-type: none"> ・アンモニアの製法について、弱塩基の遊離を使って説明し、その性質について理解する。 ・ハーバー・ボッシュ法について、その特徴を理解する。 ・硝酸の製法について、オストワルト法の触媒と特徴を理解し、硝酸の性質を確認する。 ・黄リンと赤リンの性質について確認をする。 	3	<p>思 アンモニアの製法と性質を正しく理解している。</p> <p>知 ハーバー・ボッシュ法について説明できる。</p> <p>思 オストワルト法を理解し、1つの式でまとめ問6を解くことができる。</p> <p>知 リンの同素体の特徴を正しく理解している。</p>
	7節 炭素・ケイ素とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> ・炭素の単体について、同素体を確認し、それぞれの構造や性質などを理解する。 ・一酸化炭素、二酸化炭素の製法・性質を理解し、それぞれの違いを比較する。 ・二酸化ケイ素、ケイ酸ナトリウムの性質について確認し、シリカゲルの製法・性質を理解する。 	2	<p>態 炭素の同素体の特徴を正しく理解しようとしている。</p> <p>知 炭素の酸化物について、正しく理解している。</p> <p>知 身近に利用されているシリカゲルの製法・性質について正しく理解している。</p>
	4編 無機物質 3章 典型金属元素の単体と化合物 1節 アルカリ金属とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> ・アルカリ金属の単体について、その製法を電気分解の特徴から理解する。 ・アルカリ金属の性質について確認し、原子番号が大きくなるほど反応性が高くなる理由を考える。 ・水酸化ナトリウムの製法を確認し、その性質を理解する。 ・実験5 アルカリ金属の化合物の性質を調べようを行い、水酸化ナトリウムの特徴を理解する。 ・炭酸ナトリウムの性質について確認し、アンモニアソーダ法(ソルベール法)について理解する。 	4	<p>思 アルカリ金属について、製法と性質をこれまでの学習を元に正しく説明することができる。</p> <p>知 水酸化ナトリウムの製法・性質を正しく理解している。</p> <p>態 アルカリ金属の化合物に関する実験を行い、その特徴を整理しようとしている。</p> <p>思 アンモニアソーダ法についてその特徴を正しく理解し、原料と生成物を確認して問1を解くことができる。</p>
	2節 アルカリ土類金属とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> ・アルカリ土類金属の単体の性質について、周期表を元に整理して理解する。 ・酸化カルシウム、水酸化カルシウム、炭酸カルシウム、塩化カルシウム、硫酸カルシウム、硫酸バリウムの性質や用途をまとめ、理解する。 ・実験6 アルカリ土類金属の性質を調べようを行い、2族元素の単体と化合物の反応を確認する。 	4	<p>知 アルカリ土類金属の特徴を正しく理解している。</p> <p>知 アルカリ土類金属の化合物の特徴・用途を正しく理解している。</p> <p>態 アルカリ土類金属に関する実験を行い、その性質を理解しようとしている。</p>
	3節 1, 2族以外の典型金属元素とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミニウムの単体の製法・性質・用途について確認する。 ・酸化アルミニウム、水酸化アルミニウムの性質について確認し、アルミニウムイオンの酸、塩基との反応を理解する。 ・実験7 アルミニウムの性質を調べようを行い、アルミニウムの単体と化合物の性質について確認する。 ・Pb²⁺を含む水溶液と様々な水溶液との沈殿反応を理解する。 ・合金について、身近にあるものを例に意見交換する。 	4	<p>知 アルミニウムの単体の製法・性質・用途を正しく理解し、アルミニウムイオンの反応について正しく説明することができる。</p> <p>態 アルミニウムの単体と化合物に関する実験を行い、その性質をまとめようとしている。</p> <p>知 鉛(II)イオンを含む水溶液の反応を正しく理解している。</p> <p>態 合金について、友達と意見交換しようとしている。</p>

<p>4章 遷移元素の単体と化合物 1節 遷移元素の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遷移元素の特徴を典型元素と比較しながら理解する。 ・錯イオンとは何かを知り、錯イオンの読み方、書き方について理解し、主な錯イオンの形、配位数、色について確認する。 	2	<p>思 遷移元素と典型元素の違いを説明することができる。</p> <p>知 錯イオンの基本的な表記法について正しく理解している。</p>
<p>2節 遷移元素とその化合物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化鉄、鉄(II)化合物、鉄(III)化合物について理解する。 ・鉄イオンの反応と様々な試薬との反応について沈殿と色を確認する。 ・Cu²⁺を含む水溶液と塩基や硫化物イオンの反応について沈殿と色を確認する。 ・Ag⁺を含む水溶液と塩基、硫化水素との反応を理解する。 ・亜鉛の単体が両性金属であることを確認し、その反応と性質および用途についてアルミニウムと比較しながら理解する。 ・Zn²⁺を含む水溶液と様々な水溶液との反応について確認し、化学反応式で表す。 ・クロム酸イオンと金属イオンについての反応を理解する。 ・レアメタルとは何かについて確認し、その歴史と利用について知る。 	9	<p>知 鉄とその化合物、鉄イオンの反応について、正しく理解している。</p> <p>知 Cu²⁺の反応について、正しく理解している。</p> <p>知 Ag⁺の反応について、正しく理解している。</p> <p>思 アルミニウムと亜鉛の特徴について、比較しながら理解することができる。</p> <p>知 Zn²⁺の反応について、正しく理解している。</p> <p>知 クロム酸イオンの反応について、正しく理解している。</p> <p>態 レアメタルについて、自ら調べてみようとしている。</p>
<p>5章 金属イオンの分離と確認 1節 金属イオンが検出できる反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験8 金属イオンの沈殿反応をまとめよう を行い、無機物質の学習内容と照らし合わせて確認をする。 	2	<p>態 金属イオンの沈殿反応について、これまでの学習を元に、まとめ理解しようとしている。</p>
<p>2節 金属イオンの系統分離と確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の金属イオンの混合溶液から各金属イオンを分離し、その種類を確認することを系統立てて行う方法について理解する。 ・実験9 金属イオンを分離し、確認する方法を考えよう を行い、実験計画を立てて結果をまとめることでこれまでの内容の理解を深める。 	3	<p>思 複数の金属イオンの混合溶液から金属イオンを効率よく分離する方法について、その手順を考えている。</p> <p>態 これまでの学習を元に、実験計画を立て、まとめようとしている。</p>
<p>5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 1節 有機化合物の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の構成元素の種類が少ないにもかかわらず、化合物の種類が極めて多いことを理解する。 ・炭化水素が最も基本的な有機化合物であることを知り、その分類について理解する。 ・炭化水素以外の有機化合物の官能基について表し方を確認する。 ・有機化合物のさまざまな表し方を理解する。 ・有機化合物には異性体があることを知る。 	3	<p>思 有機化合物の特徴を無機物質との違いを比較しようとしている。</p> <p>知 有機化合物の特徴を正しく理解している。</p>

2節 有機化合物の構造式の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・構造式決定の手順を理解し、物質の分離精製、成分元素の確認について理解する。 ・元素分析の方法を確認し、組成式の決定方法について理解する。 ・分子式の決定方法について確認する。 ・構造式の決定方法を確認する。 ・分子量のさまざまな決定方法について知る。 	2	知 有機化合物の構造式決定の手順を理解している。
5編 有機化合物 2章 炭化水素 1節 飽和炭化水素	<ul style="list-style-type: none"> ・アルカンの一般式 C_nH_{2n+2} を理解する。 ・直鎖状アルカンの名称と性質を理解し、代表的なアルキル基の名称についても確認する。 ・アルカンの構造異性体について理解する。 ・アルカンの性質について、理解する。 	3	知 有機化合物の基礎となる直鎖状アルカンの名称を正しく理解している。 思 アルカンの構造異性体について理解している。 知 アルカンの性質を正しく説明できる。
2節 不飽和炭化水素	<ul style="list-style-type: none"> ・不飽和炭化水素が日常のさまざまな場面で利用されていることを知る。 ・アルケンの一般式 C_nH_{2n} を確認し、アルケンの名称と構造について理解する。 ・C=C 結合の炭素原子とこれに直結する4個の原子は同一平面上にあり、アルケンのC=C結合は両端の原子団を回転させることができないことを分子模型などを使って理解する。 ・シストランス異性体について理解する。 ・アルケンの二重結合への付加反応、酸化反応、付加重合について、それぞれの特徴を元に理解する。 ・アルキンの一般式 C_nH_{2n-2} を確認し、アルキンの名称を確認する。 ・C≡C 結合の炭素原子とこれに直結する2個の原子はすべて同一直線上にあることを分子模型などを使って理解する。 	4	態 不飽和炭化水素がプラスチックをはじめとする、さまざまなものの原料となっていることを意見交換できる。 知 アルカンを元にアルケンの名称や構造について理解することができる。 態 分子模型を使って、不飽和炭化水素の特徴を理解しようとしている。 知 シストランス異性体の特徴を正しく理解している。 思 アルケンの反応を理解することができる。 知 アルキンの名称や構造を理解することができる。 思 アルケンの時と同じように分子模型を使って、アルキンの特徴を考えている。
3章 アルコールと関連化合物 1節 アルコールとエーテル	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールの構造とさまざまな分類方法について理解する。 ・アルコールの沸点・融点が同程度の分子量の炭化水素より高いことや、水溶性、金属ナトリウムとの反応性について確認する。 ・第一級アルコール、第二級アルコール、第三級アルコールの酸化について理解する。 ・エタノールを例に、アルコールの脱水反応について脱水反応の温度の違いによる生成物の違いを確認する。 ・エタノールによる殺菌効果について知り意見交換する。 ・エーテルの性質について、アルコールとの違いを確認しながら理解する。 ・実験11 アルコールの性質を確認しよう を行い、アルコールの炭素鎖の違いや級数の違い、エーテルとの反応の違いについて確認する。 	4	知 アルコールの構造と分類方法を正しく説明できる。 思 アルコールの構造の特徴を元に反応を正しく説明することができる。 知 アルコールの酸化反応について、正しく理解し、生成物を答えられる。 思 脱水反応とは何か説明でき、反応温度による、生成物の違いを理解している。 態 エタノールの殺菌効果を正しく理解しようとしている。 態 アルコールとエーテルの違いを理解しようとしている。 態 アルコールの関する実験を行い、その性質を調べ、エーテルと比較することで理解しようとしている。

2節 アルデヒドとケトン	<ul style="list-style-type: none"> ・アルデヒドの酸化還元反応について、アルコールの反応を確認しながら理解する。 ・銀鏡反応とフェーリング液の還元反応について、それぞれの反応を確認する。 ・実験12 アルデヒドの性質を調べよう を行い、アルデヒドの製法と性質を確認する。 ・ケトンの製法について確認し、アルデヒドとの違いを理解する。 ・ヨードホルム反応の特徴について理解する。 	4	<p>知 アルデヒドのさまざまな反応について、その特徴を理解し、説明することができる。</p> <p>態 ホルムアルデヒドに関する実験を行い、アルデヒドの性質をまとめ、理解しようとしている。</p> <p>知 アルデヒドとケトンの生成についてアルコールの学習から正しく考えることができる。また、ヨードホルム反応を生じる化合物の構造の特徴について理解している。</p>
3節 カルボン酸	<ul style="list-style-type: none"> ・酢酸を例にカルボン酸の示す性質や反応についてアルコールやエーテルと比較して意見交換する。 ・カルボン酸の表記について確認し、第一級アルコールやアルデヒドの酸化でできることを確認する。 ・カルボン酸が水溶液中でわずかに電離して弱い酸性を示すことを理解する。 ・不斉炭素原子について理解し、不斉炭素原子をもつ化合物に鏡像異性体の関係が存在することを確認する。 	4	<p>態 これまでの学習を元に、カルボン酸について理解しようとしている。</p> <p>知 カルボン酸の生成について、アルコールの学習から正しく考えることができる。</p> <p>思 カルボン酸の酸の強さについて、理解しようとしている。</p> <p>思 不斉炭素原子とは何かを知り、分子模型を作るなどして鏡像異性体の関係について理解しようとしている。</p>
4節 エステル・油脂・セッケン	<ul style="list-style-type: none"> ・エステルの構造について確認し、生成方法を理解する。 ・エステルの加水分解について理解し、塩基による加水分解（けん化）を確認する。 ・油脂の構造について理解し、構成する脂肪酸の種類を確認する。 ・けん化価とヨウ素価について理解する。 ・セッケンの製法について確認する。 ・油脂の分子量と必要な塩基の量について考える。 ・セッケンの洗浄作用について、表面張力・ミセル・乳化という言葉を使って説明する。 	3	<p>知 エステルの構造と特徴について、正しく理解している。</p> <p>知 油脂とは何か、構造とともに正しく説明することができる。</p> <p>思 けん化価とヨウ素価の利用方法について理解しようとしている。</p> <p>思 セッケンの特徴をこれまでの学習を元に、理解しようとしている。</p>
4章 芳香族化合物 1節 芳香族炭化水素	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンゼンの構造について、アルカンやアルケンの炭素間結合と比較して理解する。 ・ベンゼンの構造式について、その歴史を知る。 ・芳香族化合物とは何かを理解し、オルト・メタ・パラの構造異性体について知る。 ・ベンゼンは付加反応がほとんど進行せず、置換反応が進行することを理解する。 ・実験13 ニトロベンゼンを合成しよう を行い、ベンゼンとの違いを確認する。 	3	<p>思 ベンゼンの構造について、炭素間結合距離の学習を元に理解しようとしている。</p> <p>態 ベンゼンの構造式について、その歴史を知ろうとしている。</p> <p>知 芳香族化合物とは何か理解し、代表的な芳香族炭化水素を答えられる。また、その反応について、正しく理解している。</p> <p>態 ベンゼンからニトロベンゼンの合成実験を通して、それぞれの特徴を理解しようとしている。</p>

<p>2節 フェノール類と芳香族カルボン酸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フェノール類の性質をアルコールと比較して理解する。 ・フェノールは弱酸で、カルボン酸や炭酸よりも弱い酸であることを確認し、弱酸遊離の反応を確認する。 ・主なフェノール類の名前と塩化鉄(Ⅲ)水溶液による呈色反応について表3を使って確認する。 ・フェノールの製法について、クメン法を含めたさまざまな方法を確認する。 ・芳香族カルボン酸の性質について理解する。 ・サリチル酸が分子中に-COOH と-OH の両方をもっていることから、その性質と反応を理解する。 	<p>5</p>	<p>思 フェノール類の性質について、同じOH基を持つアルコールと比較したり、酸の強弱を考えたりするなどして、正しく理解している。</p> <p>知 フェノール類の名前を正しく理解している。</p> <p>思 フェノールのさまざまな製法を、使用する試薬とともに答えることができる。</p> <p>知 芳香族カルボン酸の性質を正しく理解している。</p> <p>思 芳香族カルボン酸の性質を理解し、サリチル酸の反応の特徴を考えようとしている。</p>
<p>3節 芳香族アミンとアゾ化合物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アミンの構造を確認し、塩基性を示すことを理解する。 ・アニリンの合成方法を確認し、その性質を理解する。 ・ジアゾ化とその特徴について、反応温度とともに理解する。 ・ジアゾカップリングについて確認し、その構造を理解する。 	<p>4</p>	<p>思 アミンが塩基性である理由を考えようとしている。</p> <p>知 アニリンの合成方法を正しく理解している。</p> <p>思 ジアゾ化とその特徴について理解しようとしている。</p> <p>知 ジアゾカップリングについてその構造と用途について正しく理解している。</p>
<p>4節 芳香族化合物の分離</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芳香族化合物の混合物から各化合物を分離することについて意見交換する。 ・芳香族化合物の分離の例について、図25を元に、その反応を説明する。 ・実験14 芳香族化合物を分離してみよう を行い、芳香族化合物の分離について理解する。 ・実験15 芳香族化合物の分離方法を考えてみよう を行い、芳香族化合物を分離する手順をまとめ、芳香族化合物の特徴を整理する。 	<p>3</p>	<p>態 これまでの学習を元に、複数の芳香族化合物の混合を分離する方法を、化合物の特徴から考えようとしている。</p> <p>思 芳香族化合物の分離の例を加える試薬とそれぞれの反応について考えようとしている。</p> <p>態 分液漏斗を正しく使い、分離方法を理解しようとしている。</p> <p>態 実験手順を考え、意見交換し、操作を正しく行おうとしている。</p>
<p>6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か 1節 高分子化合物の分類と特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物とは何かを理解し、その分類について知る。 ・高分子化合物の構成単位となる分子を単量体といい、重合によって重合体ができることを理解する。 ・天然高分子化合物はいずれも低分子量の化合物が重合していることを知り、その構成単位を理解する。 ・平均分子量を理解し、合成高分子の多くが結晶部分と非晶部分が入り混じった不均一な構造とり、その割合によって性質が異なることを理解する。 	<p>3</p>	<p>知 高分子化合物とは何か、正しく説明できる。</p> <p>思 単量体と重合体について理解し、その重合について考えることができる。</p> <p>知 天然高分子化合物の構成について、正しく理解している。</p> <p>思 平均分子量の概念を理解し、結晶構造や融点などについて考えることができる。</p>

<p>2章 天然高分子化合物</p> <p>1節 単糖類と二糖類</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グルコース、スクロース、マルトースを使って、還元性を確認し、糖の構造について考える。 ・単糖類の分子式を確認し、分類と性質について理解する。 ・銀鏡反応、フェーリング液の還元反応について確認する。 ・グルコースの構造について、水溶液で平衡状態について理解する。 ・フルクトースの水溶液やガラクトースの構造について確認し、還元性を示す単糖の特徴について理解する。 ・二糖類の分子式を確認する。 ・マルトース、スクロースの構造と単量体とそれぞれの加水分解酵素を確認し、スクロースが還元性を示さないことを理解する。 	4	<p>思 糖に関する実験を行い、構造の特徴について考えようとしている。</p> <p>知 糖の基本的な表し方、構造、特徴について正しく理解している。</p> <p>思 単糖類との関係を考えながら分子式を答えられる。</p> <p>思 それぞれの構造を理解し、還元性を示さない糖の特徴を説明できる。</p>
<p>2節 多糖類</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デンプンの特徴と構造について理解する。 ・〈実験16〉 デンプンを加水分解してみようの実験を行い、酸による糖の加水分解について考える。 ・セルロースの加水分解について確認し、デンプンとの違いを考える。 ・ニトロセルロースとジニトロセルロースの構造と用途について確認する。 ・再生繊維と半合成繊維について理解し、その用途を知る。 ・天然繊維について主な例を知り、その特徴と利用について考える。 	4	<p>知 デンプンの構造について正しく理解している。</p> <p>態 デンプンに関する実験を行い、糖の加水分解について正しく理解しようとしている。</p> <p>思 セルロースとデンプンの相違について考えることができる。</p> <p>知 ニトロセルロースについて正しく理解している。</p> <p>知 再生繊維について正しく理解している。</p> <p>態 天然繊維についてそれぞれの例を知ろうとしている。</p>
<p>3節 アミノ酸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・α-アミノ酸の一般的な構造式を確認し、グリシン、アラニン、グルタミン酸の構造について確認する。 ・鏡像異性体について確認し、グリシンが不斉炭素原子をもたないことを確認する。 ・アミノ酸とタンパク質の関係について確認する。 ・アミノ酸の電気泳動に関する実験を行い、構造から結果を推測する。 ・アミノ酸の電離平衡について確認し、等電点について理解する。 ・アミノ酸の反応と、ニンヒドリン反応について確認する。 ・ペプチド結合について理解し、ジペプチド、トリペプチドについて確認する。 	4	<p>知 α-アミノ酸について、正しく理解している。</p> <p>思 グリシンが不斉炭素原子をもたず、鏡像異性体がない理由を正しく説明できる。</p> <p>思 アミノ酸とタンパク質についてその関係を理解しようとしている。</p> <p>態 アミノ酸の電気泳動について、理解しようとしている。</p> <p>思 アミノ酸の電離平衡と等電点について、考えようとしている。</p> <p>知 アミノ酸の反応について、その構造から説明できる。</p> <p>知 ペプチドについて正しく理解している。</p>

4節 タンパク質	<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質の成分と形状による分類を確認する。 ・タンパク質の一次構造, 二次構造, 三次構造, 四次構造について基本的な要素を理解する。 ・タンパク質の塩析, 変性について理解する。 ・毛髪のパーマがタンパク質の変性を利用していることを知る。 ・ビウレット反応, キサントプロテイン反応, 硫黄の検出反応, 窒素の検出反応について, その反応に使われる試薬と, 反応の特徴について理解する。 ・酵素はタンパク質が主成分であることから, その性質について理解する。 ・すべての生物の細胞に含まれる核酸の構成について確認し, DNA の構造と塩基の相補性について確認する。 	4	<p>知 タンパク質の分類について正しく説明できる。</p> <p>知 タンパク質の構造について正しく理解している。</p> <p>思 タンパク質の性質について, その特徴から考えることができる。</p> <p>態 タンパク質の変性の身近な利用について理解しようとしている。</p> <p>知 タンパク質の呈色反応について正しく理解している。</p> <p>思 酵素の性質について, 無機触媒との違いを考えている。</p> <p>態 すべての生物の細胞に含まれている核酸について, その構造とはたらきを知ろうとしている。</p>
3章 合成高分子化合物 1節 合成繊維	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイロン66, ナイロン6の構造と特徴・用途, それぞれの単量体について理解する。 ・ポリエチレンテレフタラートの構造と特徴・用途・単量体について確認する。 ・ビニロンについてその製法・性質・用途について理解する。 	4	<p>知 ナイロンの構造について, 正しく理解している。</p> <p>態 ポリエチレンテレフタレートについて, 正しく理解しようとしている。</p> <p>思 ビニロンの製法について, これまでの学習から正しく理解しようとしている。</p>
2節 合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> ・熱可塑性樹脂の特徴について理解し, その主な製法と構造・用途について理解する。 ・熱硬化性樹脂の特徴について理解し, 架橋構造について確認する。 ・フェノール樹脂の製法・性質・用途を理解する。 ・イオン交換樹脂とは何かを理解する。 ・陽イオン交換樹脂, 陰イオン交換樹脂の特徴について理解し, イオン交換樹脂の利用と再生について考える。 	4	<p>知 熱可塑性樹脂について, 正しく理解している。</p> <p>思 熱硬化性樹脂について, 熱可塑性樹脂との違いを元に考えることができる。</p> <p>知 フェノール樹脂の製法について正しく理解している。</p> <p>知 イオン交換樹脂について正しく説明できる。</p> <p>思 イオン交換樹脂の利用と再生について, 構造から説明しようとしている。</p>
3節 ゴム	<ul style="list-style-type: none"> ・天然ゴム(生ゴム)の特徴と構造について理解する。 ・合成ゴムの製法について確認し, 主な合成ゴムの構造と用途について確認する。 	3	<p>知 天然ゴムについて, その特徴を正しく理解している。</p> <p>知 合成ゴムについて, その構造も含めて正しく理解している。</p>

7編 化学が果たす役割 1章 化学的性質の利用と工業的製法 1節 ハロゲンの性質と酸化還元反応の応用		<ul style="list-style-type: none"> ・《塩素消毒されている水道水を生物の飼育に適した水にしたい。水道水中の塩素濃度は、どのようにしたら調べられるのだろうか。》の問を推察する。 ・《塩素の濃度を調べる》を読み、問に取り組む。 ・ビタミンCの濃度に関する実験を行い、清涼飲料水中に含まれるビタミンCを計算する。 ・《二酸化硫黄の物質量を調べる》を読み、問に取り組む。 ・さまざまな物質について、日常生活や社会との関係を考える。 	2	<p>態 身近にある化学物質についてその方法を考えようとしている。</p> <p>思 酸化還元反応から、考え方を表現できる。</p> <p>態 これまでの学習と、生活の中の化学を結びつけて考えようとしている。</p> <p>思 ヨージメトリーという方法を理解しようとしている。</p> <p>思 この節を通して、様々な物質がそれぞれの特徴を生かして人間生活の中で利用され、日常生活や社会を豊かにしていることを理解しようとしている。</p>
2節 物質の工業的製法		<ul style="list-style-type: none"> ・鉄の精錬、銅の製造、アルミニウムの製造、有機工業化学、高分子化合物に関する文を読み、それぞれの社会への関わりを考え、意見交換し、レポートにまとめたり、発表したりする。 	2	<p>思 これまでの学習を元に、化学と社会との関わりを幾つか例を挙げて考え、克服してきた課題や科学技術の発展について、科学的な根拠に基づいて考察している。</p>
2章 未来を創る化学 1節 物質を通して未来を創る		<ul style="list-style-type: none"> ・《元素と物質と機能》を読んで、ハーバー・ボッシュ法とは異なるアンモニア合成の優れた触媒について理解し、これからの化学の大きな課題について意見交換する。 	2	<p>態 物質の機能について、学習したものを基礎として、様々なものがあることを知り、これまでに克服してきた課題や、未来への課題について意見交換しようとしている。</p>
2節 物質を通して未来を考える		<ul style="list-style-type: none"> ・ハーバー・ボッシュ法の歴史を元に、化学が果たす役割を考える。 ・これまで学習してきた内容を踏まえて、これまでをまとめ、未来に向けてどうあるべきかを考え、議論する。 	2	<p>態 ハーバー・ボッシュ法の改善点について考えようとしている。</p> <p>思 ハーバー・ボッシュ法だけでなく、様々な課題について自分なりに考え、まとめ、議論している。</p>

計128時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- ・単元ごとに課題の提出 および 確認テストを行います。
- ・定期考査ごとに アクセスノート化学 の取組を点検します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

必要とされる学力は、正しい知識、深く柔軟な思考力、速く正確な計算力です。結論だけを記憶するのではなく、考察する学習を平素の授業において習慣づけてほしい。

授業への取り組み方は、内容が深く幅広いので、時間割としてほぼ毎日授業がある。これまでとはギアを入れ替えて、学習の重心を化学に傾けて、自学の時間を設けることが成功への糸口となります。

家庭学習の取り組み方では、「セミナー化学」の基本問題は全て解けることが必須であり、「チェック&演習」の重要問題にも恒常的に触れておきましょう。繰り返しの問題演習が、学力向上につながります。計画性と実行力を大切にしましょう。

教科(科目)	生物	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(理系)
使用教科書	数研出版『生物』				
副教材等	数研出版 新課程『リードLight ノート生物』、第一学習社 新課程版『スクエア最新生物図説』 第一学習社 新課程版『セミナー生物基礎+生物』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 指導の重点

- ① 進化の視点を持ち、生命現象についての深い理解を目指します。
- ② 生命現象を科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能の習熟を目指します。
- ③ 上記2つを的確に表現できることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通し、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解している。また観察、実験等に関する基本的な技能を身につけている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、論理的に考え、分析的、総合的に考察し、科学的に判断することができる。またその結果を的確に表現することができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究する態度を身につけようとしている。また生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身につけようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	領域	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点	評価方法
4 ・ 5	第5章 動物の反応と 行動	2. ニューロンとその興奮 受容器から脳への連絡、ニューロンの構造、ニューロンの興奮、興奮の伝導と伝達	ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であり、イオンチャネルやポンプのはたらきで生じることを理解する。 ニューロンに生じた興奮が軸索を伝わり、シナプスを介して次のニューロンへと伝えられることを理解する。	5	a b c	提出物 (記述の点検) 提出物 (記述の確認) 学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		3. 情報の統合 神経系、中枢神経系	ヒトの神経系が、末しょう神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。 ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。	4		
		4. 刺激への反応 筋肉の構造と収縮	効果器である筋肉の構造を理解する。 筋肉が、神経系から伝達されてきた刺激を受け取って収縮するしくみを理解する。	5		
5	中間考査			1	a, b	
5 ・ 6	第5章 動物の行動 動物の行動とその連鎖、いろいろな生得的行動、学習と記憶	5. 動物の行動 動物の行動とその連鎖、いろいろな生得的行動、学習と記憶	動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。	4	a b	提出物 (記述の点検) 提出物 (記述の確認)
		第6章 植物の環境応答	1. 植物の生活と植物ホルモン 植物の生活と反応	植物は、周囲の環境の変化を感知して、自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。 環境からの情報の伝達には、植物ホルモンがはたらいていることを理解する。	4	c

		2. 発芽の調節 種子の休眠と発芽, 種子の発芽と光	植物の種子が, 周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみと, その意義を理解する。	4		
		3. 成長の調節 植物の生長と光, 植物の生長と重力	植物の成長は, 光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。 植物の成長の調節には, 植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解する。	5		
6	期末考査			1	a, b	
7 ・ 8 ・ 9		4. 器官の分化と花芽形成の調節 植物の器官と組織, 花芽形成の調節	植物は, 葉, 茎, 根, 花といった器官からなり, これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。 植物の器官の分化は, 成長の段階や環境の変化に応じて調節されていることを理解する。	6	a b C	提出物 (記述の点検) 提出物 (記述の確認) 学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		5. 環境の変化に対する応答 物質の出入りの調節, 植物の環境応答	植物が, 環境要因の変化に応じて, 気孔を開閉し, 二酸化炭素や水の出入りを調節するしくみを理解する。 植物が, 病気や食害, 生育に不適當な環境で, どのように自身を守っているのかを理解する。	6		
		6. 配偶子形成と受精 被子植物の配偶子形成と受精, 胚や種子の形成と果実の成熟	被子植物における配偶子形成と受精のしくみを理解する。 種子の形成や果実の成熟のしくみを理解する。	6		
	第7章 生物群集と生態系	1. 個体群の構造と性質 個体群, 個体群の成長と密度効果, 個体群の年齢構成と生存曲線	個体群の成長のしかたには個体群密度が影響していることを理解する。 生物の生存曲線の型は, その生物の年齢ごとの死亡率によって大別されることを理解する。	5		
9	中間考査			1	a, b	
10 ・ 11		2. 個体群内の固体缶の関係 群れ, 縄張り, 社会の構造と分業	同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。 動物の個体群内の個体どうしの間で, どのような関係が見られるか理解する。	6	a b	提出物 (記述の点検) 提出物 (記述の確認)

		3. 異なる種の個体群間の関係 生物群集，被食者－捕食者相互関係，種間競争，生態的地位と共存，さまざまな共生	生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており，個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。 生物群集の中で多様な生物種が共存できるしくみを理解する。	6	c	学習内容をノート・レポートにまとめさせたり，学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		4. 生態系の物質生産と物質循環 生態系の構成とつながり，生態系における物質生産，生態系における物質収支，物質循環とエネルギーの流れ	上位の栄養段階の生物では，利用できるエネルギー量にかぎりがあることを理解する。 生態系における物質の循環とエネルギーの移動について，それぞれの特徴を理解する。	6		
		5. 生態系と人間生活 生物多様性とその恩恵，人間活動が生態系に影響を与えるしくみ，私たちの生活と生態系	生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。 人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。	5		
11	期末考査			1	a, b	
12 ・ 1 ・ 2		〔課題学習〕 2年生からの生物の学習を通して、生物学的に探究する能力と態度をもとに、生物学の基本的な概念や原理・現象について深く考察する。	【思考・判断・表現】 生物事象を実証的、論理的に考え、分析的、総合的に考察することができる。また、問題を解決し、事象に基づいて科学的に判断することができる。	15		

7 課題・提出物等

- ・定期考査ごとにリードLight ノートの取り組みを点検します。
- ・タブレットに配信した課題への取り組みを点検します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

生物には重要用語がたくさん出てきます。用語の暗記はもちろん必要ですが、その内容を正確に理解することが重要です。また、時間とともに変化する生命現象を、自分の言葉で説明できる力も必要となってきます。さらに数学や化学の知識が必要な内容もあり、幅広い知識を使って深く考えていくことになります。

生命現象は観察や実験によって解明されてきました。実験結果の丸暗記ではなく、どのようにして解明されてきたかを考えながら学習していくとさらに深く理解できると思います。
(担当：小林朋子)

令和6年度シラバス（理科） 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	理科（生物基礎総合）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(文系)
使用教科書	数研出版『高等学校生物基礎』 東京書籍『化学基礎』				
副教材等	数研出版『リードlight ノート生物基礎』 第一学習社『新課程版スクエア最新区説生物』 数研出版『チェック&演習生物基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を物質とその変化と関連づけながら科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について物質とその変化に注目しながら理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生命現象を物質とその変化に注目しながら主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>1. 基本的な生物現象について、化学的な視点をもって深い理解を目指す。</p> <p>2. 生物現象を科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能の習得を目指す。</p> <p>3. それらを的確に表現できることを目指す。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。
--	------------------------	---

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	領域	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 ～ 5	生物の特徴	光学顕微鏡とマイクロメータの使用法	光学顕微鏡を用いて細胞等の大きさを測定する。	3	a 提出物 (記述の点検)
		酵素の性質	酵素の働きや性質を実験によって調べる。	3	b 提出物 (記述の確認)
		光合成と呼吸	光合成と呼吸の化学反応における物質量の計算をする。	3	c 学習内容をまとめさせたり、発表させたりする。
	中間考査			1	a b
5 ～ 6	生物の特徴	DNA など高分子化合物の構造	高分子化合物である DNA の分子構造を理解する。 DNA の分子構造から DNA 複製のしくみを見いだすとともに、DNA 複製の意義を考える。	4	a 提出物 (記述の点検)
		細胞周期と DNA 量の変化	細胞周期の間期に DNA の複製が行われ、分裂期に DNA が等しく分配され、結果としてどの細胞でも同じ遺伝情報をもつことを理解する。	3	b 提出物 (記述の確認)
		核移植	ガードンによるクローンカエルの作製から細胞の分化のしくみを理解する。	2	c 学習内容をまとめさせたり、発表させたりする。
	期末考査			1	a b
7 ～ 9	ヒトの体の調節	神経系と内分泌系	神経系と内分泌系の働きについて理解する。	3	a 提出物 (記述の点検)
		血液凝固	血液凝固のしくみを化学的に理解する。	2	b 提出物
		血糖濃度調節	血糖濃度調節機構をまとめ、その異常がもたらす疾病について考える。	2	(記述の確認)
		体温調節	体温調節機構をまとめる。	2	c 学習内容をまとめさせたり、発表させたりする。
		免疫のしくみ	免疫のしくみと特徴について理解する。 免疫機構の異常によって生じる疾患や、免疫機構の医療技術への応用について調べる。	3	

	中間考査			1	a b
10 ～ 12	生物の多様性 と生態系	植生と遷移	植生が遷移する過程と要因について理解する。 世界と日本のバイオーム分布について、気候と関連づけながらまとめ、それぞれの特徴を見いだす。	7	a 提出物 (記述の点検) b 提出物 (記述の確認)
		生態ピラミッド	生態ピラミッドについて理解する。	5	c 学習内容をまとめさせたり、発表させたりする。
	期末考査			1	a b
12 ～ 2	生物の多様性 と生態系	化学物質と生態系	NH_4^+ の増減が生態系に与える影響を理解する。 有機化合物の用途と生態系への影響を考える。 人間活動による富栄養化とその対策を考える。	9	a 提出物 (記述の点検) b 提出物 (記述の確認)
		外来生物の影響	外来生物の影響から、人間による生物の導入が生態系に与える影響を考える。	9	c 学習内容をまとめさせたり、発表させたりする。

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期考査ごとに課題の取組を点検します。
- ・提出物 (タブレットに配信した課題も含まれます) への取組を点検します。

8 担当者からの一言

生物基礎総合では、1 学年で履修した生物基礎の内容に 2 学年で履修した化学基礎の内容と関連付け、総合的な理解を目指します。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう！

(担当：石澤)

令和6年度シラバス (理科)

学番50

新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	理科 (化学基礎総合)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(文系)
使用準教科書	東京書籍『化学基礎』	数研出版『高等学校生物基礎』			
副教材等	実教出版『アクセスノート化学基礎』 第一学習社『セミナー化学基礎』	数研出版『チェック&演習 化学基礎』			

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方をはたらかせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)物質とその変化に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>① 物質とその変化についての理解を目指します。</p> <p>② 物質とその変化を科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能の習得を目指します。</p> <p>③ それらを的確に表現できることを目指します。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
評価の 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の分析 実験レポート、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の分析 実験レポート、提出物などの内容の確認などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表への取組の観察 実験レポート、提出物などの内容の確認などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名と領域	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	酸化還元反応 酸化と還元	(1) インターネットを用いるなどして、日常生活の中で利用されている酸化還元反応を調べ、調べた内容について発表を行う。 (2) 酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。 「酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。」 (3) 酸化還元反応を酸化数の増減によって判断することができる。	5	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 課題提出 実験レポート 小テスト 定期考査
5	酸化剤と還元剤	(1) 酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てることができる。 (2) 酸化還元反応の量的関係を理解している。 (3) 金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解し、知識を身に付けている。 (4) 酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の構成などの基本的な知識を身に付けている。 (5) 代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現できる。 (6) 観察、実験を通して、酸化・還元定義と、酸化数の定義の有効性を理解し、それらをもとに事物・現象の中に共通性を見出し、酸化還元反応として論理的に考察できる。	5	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 課題提出 実験レポート 小テスト 定期考査
6	金属の酸化還元反応	(1) 燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとする。 (2) 酸化還元反応の量的関係を物質と関連付けて考察しようとする。 (3) 学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。	5	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 課題提出 実験レポート 小テスト 定期考査

7 8 9	酸化還元反応の応用	<p>(1) 電池が酸化還元反応を利用して、化学エネルギーを電気エネルギーに変換する装置であることを理解している。 光合成について、エネルギーの観点から考察する。 「電気エネルギーを取り出す電池のしくみを酸化還元反応と関連付けて理解する。」</p> <p>(2) 身近な電池のしくみについて、酸化還元反応と関連付けて理解している。</p> <p>(3) 電気分解におけるファラデーの法則を理解し、量的関係を扱う知識を身に付けている。 「外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、酸化還元反応と関連付けて理解する。」 「反応に関与した物質の変化量が流れた電気量に比例することを理解する。」</p> <p>(4) 観察、実験を通して、電池の構造、反応を理解し、それらをもとに事物・現象の中に共通性を見だし、酸化還元反応として論理的に考察している。 「電気分解の利用として、電解精錬や熔融塩電解を理解する。」</p> <p>(5) 電池や電気分解の実験を行い、その説明を科学的に表現している。</p> <p>(6) 電池・電気分解に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
10	化学と人間生活	<p>(1) 「化学基礎」で学んだ事柄が、日常生活や社会を支える科学技術と結びついていることを理解している。</p> <p>(2) 「化学基礎」で学んだ事柄が日常生活や社会でどのようにいかされているかを教科書の題材以外にも範囲を広げて考察することができる。 おもに以下の物質について扱う。 ・セラミックス ・プラスチック ・繊維</p> <p>(3) 「化学基礎」で学んだ事柄が日常生活や社会の中でどのようにいかされているかに注目し、意欲的に探究しようとする。 ・水素結合とDNA ・高分子化合物（タンパク質とアミノ酸）（デンプン、グリコーゲン）</p> <p>(4) 学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
11	化学とその役割	<p>(1) 物質と人間生活、化学とその役割に関する具体的物質や社会との関連、歴史に興味を持ち、意欲的にそれらに取り組むとともに、科学的態度を身につけている。 おもに以下の物質について扱う。 ・食糧の確保 ・食料の保存 ・洗剤 ・物質と環境リスク ・アンモニウムイオンと水質汚染</p> <p>(2) 観察、実験を通して、人間生活の中の化学に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査

12	課題解決学習	化学基礎全般の知識を発展的に活用した課題解決学習。 (1) 化学基礎全般の学習内容を効果的に活用することができ、意欲的に課題に取り組むとともに、科学的態度を身につけようとしている。 (2) 化学基礎全般の知識を発展的に活用した学習を行うことによって、思考・判断し、表現しようとしている。 (3) 観察、実験の技能を習得するとともにそれらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現しようとしている。 (4) 化学基礎全般の知識を発展的に活用した学習を行うことによって、知識・理解を深めている。	19	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査
1				
2				
3				

計64時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに課題の提出 および 確認テストを行います。
- ・定期考査ごとに 課題の取組を点検します。

8 担当者からの一言

この科目は、2年生で学習した『化学基礎』の内容を深めたり発展させたりする授業になります。タブレットを用いてインターネットを検索して、その内容を発表する場面があります。また、3年生になり、次の進路へと進んでいくことを踏まえて、更に主体的にそして意欲的に取り組んでいくことが期待されます。

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
副教材等	大修館書店 新高等保健体育ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識と技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わう。 2 運動について自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決にむけて思考判断する。 3 生涯にわたって継続して運動に親しみ、明るく活力のある生活を営む資質や能力を養う。

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・各領域において、運動の特性に触れさせ、その楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 ・健康や安全についての理解を深め、内容や環境に応じて、適切に取り組むことができるようにする。 ・周囲に配慮し、仲間と協力しながら取り組むことができるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。
--	---	---

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組みの状況 提出課題の記述内容 スキルテストやゲームにおける動き 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組みの状況 提出課題の記述内容 グループ活動での発言や指示の内容 活動における練習の工夫やゲームにおける動き 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 学習活動への取り組みの状況 振り返りシート

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 5	体づくり運動	6	集団行動 体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 集合、整列、列の増減、挨拶 学校体操 体ほぐしの運動 体力を高める運動 	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
6 7	陸上競技 (男女)	6	長距離走 障害走 跳躍 投てき	<ul style="list-style-type: none"> 男子 3000m 女子 1500m 男子 100mH 女子 80mH 走幅跳 (選択) 円盤投げ (選択) 	abc	タイム計測 授業の様子 (行動の確認)

	I 期球技 選択 (男女)	16	サッ カ ー	<p>○個人的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なボールの扱い方 ・ドリブル、パス ・トラッピング ・シュート <p>○集団的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジアンドカバー ・クロスからのシュート ・ワンツーパスからのシュート ・ボールを持っている人に 選択 肢を与える。(増やす) <p>○ゲーム</p>	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
			バス ケ ツ ト ボ ー ル	<p>○個人的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パス ・キック ・ドリブル ・シュート <p>○集団的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンツーマンディフェンス ・ゾーンディフェンス <p>○ゲーム</p>		
8	体育理論	6	体 育 理 論	<p>○生涯スポーツの見方考え方</p> <p>○ライフスタイルにおうじたスポーツ</p> <p>○日本のスポーツ振興</p> <p>○スポーツと環境</p>	abc	確認テスト 授業の様子 (高度王の確認)

9 10	Ⅱ期球技 選択 (男女)	15	ソフト ボール バドミ ントン バレー ボール	○個人的技術 ・オバースロー ・サイドスロー ・キャッチボール ・バッティング ○集団的技術 ・シートノック・送球練習 ○ゲーム ○個人的技術 ・オーバーヘッド ・フォアハンド ・バックハンド ・サーブ ○ストローク ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム ○個人的技術 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・スパイク ・ブロック ・サーブ ○集団的技術 ・三段攻撃 ・二段攻撃 ・時間差攻撃 ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
11 12 1	Ⅲ期球技 選択 (男女)	15	バスケット ボール バドミ ントン 卓球	○個人的技術 ・パス ・キャッチ ・ドリブル ・シュート ○集団的技術 ・ゾーンディフェンス ・ポストプレー ○ゲーム ○ストローク ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム ・シェークハンド ・ツッツキ ・カットサーブ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

振り返りシート

8 担当者からの一言

- ① 「できない」だけではなく、「できるように励むこと」が評価に大きく関わるため、授業については積極的に活動すること。
- ② 授業はチャイムと同時に開始するので、着替えや活動場所への移動は休み時間内に完了しておくこと。
- ③ 体育の授業は出席してしっかり参加することを前提とする。体調不良の場合や怪我で参加できない場合は、担当者に相談し判断する。見学の際は見学届けの記入をすること。
- ④ 同じ教材は選択できない。

教科(科目)	芸術（音楽Ⅱ）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(文系)
使用教科書	MOUS AⅡ（教育芸術社）				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

音楽Ⅰでの学習を基盤として、音楽表現の楽しさを広げ、様々な音楽経験を通して音楽を愛好する心情を育て、創造的な表現能力を伸ばす

3 指導の重点

実技を中心に、表現の基礎から応用までを行います。自分たちで創意工夫を加えることで、表現力を身につける。お互いの音を聴きあうことで、様々な表現方法を理解することを身につける。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表現しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

評価方法	以上の観点を踏まえ、実技テストなどから、評価します。	以上の観点を踏まえ、実技テストなどから、評価します。	以上の観点を踏まえ、実技テストなどから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	創作			編曲、移調等の作業を伴う、オルゴールキットによるオルゴール制作。	10	実技テスト
5						
6	器楽			進路に応じた楽曲を選択し、鍵盤実習。	8	
7	ソロ・アンサンブル演奏			個人またはアンサンブルによる演奏	16	実技テスト
8	歌唱			合唱曲の制作	16	
9	ミュージックベル				16	
10	発表会			学年末の演奏会に向けて、各自が決めた課題に取り組む。	16	
11						
12	課題学習				14	
1						

計96時間(55分授業)

7 課題・提出物等

特にありません

8 担当者からの一言

音楽を通して自分と向き合い、しっかりと取り組んでください。
(担当：鈴木)

教科(科目)	芸術Ⅱ（美術Ⅱ）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(文系)
使用教科書	日本文教出版『高校生の美術2』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3 指導の重点

- (1) 美術Ⅰでの学習をふまえ、より創造的な諸活動を体験する。
- (2) 美的体験を積み重ねる中で感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
- (3) 美術文化についての理解を深め、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現活動や鑑賞に取り組もうとしている。	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために、必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫して表している

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、提出された作品などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、提出された作品などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、提出された作品などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法

4	クリエイション/鑑賞	1	配布資料および教科書を使ったクリエイション	【関心・意欲・態度】 美術に対し学ぶ意味を理解し、意欲と関心を持つことができる	1	年間を通し、ペーパー試験は実施せず、提出された課題、感想文、作品カードや作品等に より考査に代える
	絵画/彫刻/表現	2	鉛筆デッサン「手」	【創造的な技能】 対象を冷静に観察し、確かな描写力でデッサンを仕上げる ことができる。	2	
5	絵画/彫刻/表現	9	鉛筆による構想表現	【発想や構想の能力】 個性的な発想力や感性で表現の工夫をし、創造的な表現に発展させることができる。	9	
6	デザイン/表現	9	色彩構成と配色の基礎	【創造的な技能】 配色の知識を活用し、創造的な色彩構成ができる。	9	
7	絵画/表現	9	静物着彩（水性絵の具ないしは油彩）	【創造的な技能】 画材の特性を理解し、表現方法を工夫しながらより高いレベルの作品を完成させることができる。	9	
8	絵画/彫刻/鑑賞	(2)	(美術館での鑑賞)	【鑑賞の能力】 作家や作品の良さを感じ取り、適切な文章にまとめることができる。	(2)	
9	絵画/表現	10	静物着彩（水性絵の具ないしは油彩）	【創造的な技能】 画材の特性を理解し、表現方法を工夫しながらより高いレベルの作品を完成させることができる。	10	
10	絵画/彫刻/表現	10	鉛筆ないしは木炭による静物あるいは石膏デッサン	【関心・意欲・態度】 対象を冷静に観察し、確かな描写力でデッサンを仕上げる ことができる。	10	
11	絵画/デザイン/表現	10	自由課題①	【発想や構想の能力】 個性的な発想で表現の工夫ができる。	10	
				【創造的な技能】 画材を使いこなし、丁寧な作品に仕上げる ことができる。	9	
12	絵画/デザイン/表現	9	自由課題②	【発想や構想の能力】 個性的な発想で表現の工夫ができる。	10	
				【創造的な技能】 画材を使いこなし、丁寧な作品に仕上げる ことができる。	10	
1	探求課題	10	進路に応じた課題①	【創造的な技能】 画材の特性を理解し、使いこなし、表現方法を工夫しながらより高いレベルの作品を完成させる ことができる。	7	
2		10	進路に応じた課題②			
3		7	進路に応じた課題③			

計 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

各学期で作品等を提出してください。

8 担当者からの一言

締め切りに間に合うように作品を提出してください

(担当：山田)

教科(科目)	外国語 (英語コミュニケーションⅢ)	単位数	4単位	学年(コース)	3学年(文系・理系)
使用教科書	PANORAMA English Communication 3 (大修館)				
副教材等	同教科書 学習ノート、Smart Reader BASIC (いっずな書店)、Listening Scope STANDARD (いっずな書店)、英単語 Stock 3000 (文英堂)、速読+精読 2-step Reading 発展編 (CHART)、Vision Quest 総合英語 3rd Edition (啓林館)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、使用する語句や文、対話表現を適切に用いる。</p> <p>(2) 日常的な話題や社会的な話題について、相手や状況に応じて情報や考え、気持ちを話して伝え合うことを目指す。</p> <p>(3) 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、習得したことを基にやりとりを続け、会話を発展させることを目指す。</p> <p>(4) 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えを論理性に注意して文章を書いて伝えることを目指す。</p>

3 指導の重点

<p>①日常で起きた事象や社会的な出来事を読み、要点を捉えて情報を整理すること。</p> <p>②英語を理解し表現するために、聞く、読む、話す、書くといった4技能を活用すること。</p> <p>③与えられた課題だけでなく自分から課題を設定し、自己実現を目指し行動すること。</p> <p>④協働学習の中で色々な意見や考えに触れて視野を広げること。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞く、読む、話す[やり取り・発表]、書くために必要となる語彙や表現を理解している。日常的な話題や社会的な話題についての説明を読み取ったり、情報や考えを理由とともに伝えたりする技能を身につけている。	日常的话题や社会的な話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、相手や状況に応じて伝えている。世界の問題について書かれた説明文を読んで、概要や要点を捉えている。	日常的话题や社会的な話題についての意見や考えを、概要や要点を捉えようとしている。習得したことを基に活用して多様な表現で伝えようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・教科書に準拠した初見文の内容の確認 ・ワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・ワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・ワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	L1 笑いに関連する日本の伝統文化について発表する	Lesson 1 Laughter	笑いについての英文の概要や要点、詳細を理解し、笑い与健康の関連性や、日本の伝統文化における笑いを紹介する。	9	・ワークシート(記述の確認) ・発表の様子(行動の確認)
	L2 動物に関する記事を読み、環境保護について整理する	Lesson2 Black and White Beauty	動物に関する記事を読み、準備として要点を整理した上で、意見交換する。	9	・ワークシート(記述の確認) ・発表の様子(行動の確認) ・課題提出(記述の点検)
	L3 水の大切さについて論理的に話す	Lesson3 Water	水の大切さについての情報や考えを論理的に話し、節水の工夫についてやりとりする。	9	・ワークシート(記述の確認) ・発表の様子(行動の確認)
	L4 コーヒーやフェアトレード製品について論理的に話す	Lesson4 Coffee Travels the World	コーヒーやフェアトレード製品について情報や考えを、具体例を挙げながら意見交換する。	9	・ワークシート(記述の確認) ・発表の様子(行動の確認)

7 8 9	L5 将来の進路設計についての 実話を読んで論理的に書く	L5 From Homeless to Harvard	実話に基づく記事を読み、将来就きたい職業とその理由について、これからすべき準備を交えて書く。	10	・ワークシート (記述の確認) ・発表の様子 (行動の確認) ・課題提出 (記述の点検)
	L6 スマートフォンの活用法についてやり取りする。	Lesson6 Smaerphones	スマートフォンの有効活用について自分の考えを論理的に話し、やり取りする。	10	・ワークシート (記述の確認) ・発表の様子 (行動の確認) ・課題提出 (記述の点検)
	L7 パーソナルスペースについて自分の体験を話す	Lesson7 Personal Space	パーソナルスペースについて概要を理解し、自分の体験に基づいて発表する。	12	・ワークシート (記述の確認) ・発表の様子 (行動の確認)
10 11 12	L8 お金の役割と電子マネーについて要点を整理する	Lesson8 What is Money?	お金の役割や電子マネーの利点と欠点について要点を整理しながらディスカッションをする。	12	・ワークシート (記述の確認) ・発表の様子 (行動の確認)
	L9 ニューロマーケティングについて影響された体験を書く。	Lesson9 Buyology	人の購買行動や自分が何かを買う際に影響する要素について詳細を理解し、自身の体験を書く。	12	・ワークシート (記述の確認) ・発表の様子 (行動の確認) ・課題提出 (記述の点検)
	L10 宇宙探査について賛否の立場を明確にして自分の意見を論理的に書く。	Lesson10 Mars	宇宙探査についての記事を読み、賛否の立場を明確にした上で、図解し、発表する。	14	・ワークシート (記述の確認) ・発表の様子 (行動の確認) ・課題提出 (記述の点検)
1 2 3	課題学習		1年間学習したことを元に、様々な英文を読んで応用力を養う。	22	・ワークシート (記述の確認) ・発表の様子 (行動の確認) ・課題提出 (記述の点検)

計128時間(55分授業)

7 課題・提出物等

・毎週末の課題、毎週明けの単語テストの範囲、長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

3年次は、それぞれの進路実現のための学習となります。よって、与えられた課題をただやるだけでなく、今の自分に必要なことを必要なだけ身につける時間の確保、やり方の模索、定着するまでの反復、といったすべてを自律して自分に課してください。自分で考えて自分で学習する生徒になってほしいと思います。「英語」は単なる語学ではなく、自分を表現し、自分の世界を広げるための手段です。科目を通して見聞を深めて視野が広がることを望みます。(担当：新保)

令和6年度シラバス (外国語) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	外国語 (論理・表現Ⅲ)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 (文系)
使用教科書	Harmony 論理・表現Ⅲ (いっぴな書店)				
副教材等	自分の力で書く大学入試英作文FINAL DRAFT (いっぴな書店)、大事なことから身につける英文コア構文99+α (文英堂)、英単語 Stock 3000 (文英堂)、Vision Quest 総合英語 3rd Edition (啓林館)、UPGRADE 英文法・語法問題 三訂版 (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切に、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いる。</p> <p>(2) 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、状況に応じて論理の展開や表現の工夫を行い、運用する力を養う。</p> <p>(3) 事前の準備などにおいて、習得したことを活用して、多様な表現で伝えることを目指す。</p>
--

3 指導の重点

<p>①日常で起きた事象や社会的な出来事を読み、要点を捉えて作者の意図を理解し整理すること。</p> <p>②自分の意見を、話したり書いたりといったその場に応じた適切な方法で表現すること。</p> <p>③与えられた課題だけでなく自分から課題を設定し、得意を伸ばし不得意を少しずつ克服すること。</p> <p>④協働学習の中で色々な意見や考えに触れて視野を広げること。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<p>聞く、読む、話す[やり取り・発表]、書くために必要となる語彙や表現を理解している。日常的な話題や社会的な話題についての説明を読み取ったり、情報や考えを理由とともに伝えたりする技能を身につけている。</p>	<p>日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、相手や状況に応じて伝えている。世界の問題について書かれた説明文を読んで、概要や要点を捉えている。</p>	<p>日常的な話題や社会的な話題についての意見や考えを、概要や要点を捉えようとしている。習得したことを基に活用して多様な表現で伝えようとしている。</p>
---	--	---

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 教科書に準拠した初見文の内容の確認 レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 作品制作の表現の観察 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表への取組の観察 レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 パフォーマンステスト <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表への取組の観察 レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	L1 自分が住む街について説明する	Lesson 1 My Hometown	自分の街について紹介する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認) 提出物 (記述の確認)
	L2 住んでみたい場所を想像する	Lesson2 The Place I'd like to Live	自分の住んでみたい場所について、スピーチを行う。	4	
	L3 未来の都市計画について考える	Lesson3 The Cities of Future	自分が住んでいる街が主催する「魅力ある未来の街づくりコンテスト」に応募するつもりになって、プレゼンテーションをする。	8	
	L4 気分転換の方法や娯楽について話す	Lesson4 Refreshing Our Minds and Bodies	英文を読んで心と体をリフレッシュさせるための余暇の過ごし方を2種類挙げ、対比させながら話す。	4	

7 8 9	L5 好きなことや得意なことについて話す L6 将来のキャリアについて考える L7 世界の異常気象について考える L8 エネルギー問題について考える L9 地球の未来について考える	Lesson5 Study Struggles Lesson6 Choosing a Career Plan Lesson7 Extreme Weather around the World Lesson8 Working to Solve Energy Problems Lesson9 For the Future of Our Planet	屋外活動と室内活動というテーマでスピーチをする。 「好きなことを仕事にする」「好きなことを仕事にしない」の2つの考え方を比較し、ディスカッションをする。 身近な気候変動の兆候について論理的な構成で文章を書く。 エネルギー問題の解決法について、問題の原因を取り除く方法、新たなシステムや枠組みを提案する方法、人々の行動を変容させる方法についてグループでそれぞれアイディアを出し、書く。 水不足の問題に対して、グループでディベートを行う。	4 8 8 8 8	・ワークシート（記述の確認） ・発表の様子（行動の確認） ・提出物（記述の確認）
10 11 12	L10 買い物の世界経済について話す L11 経済格差について考える L12 持続可能な経済成長について考える	Lesson10 What's Ethical Shopping? Lesson11 Global Economic Inequality Lesson12 Sustainable Economic Growth	食品が食卓に届くまでのプロセスについて調べ、説明をする。 ソーシャルメディアに投稿された4人の意見を読み、私たちができることについてアイディアを話し合う。 「持続可能な経済成長に向けて」というテーマで短いスピーチを行い、ポスターを作成する。	8 8 8	・ワークシート（記述の確認） ・発表の様子（行動の確認） ・提出物（記述の確認）
1 2 3	実践演習		1年間学習した内容を元に、様々な英文を扱い運用できる力を養う。	16	・ワークシート（記述の確認） ・発表の様子（行動の確認） ・提出物（記述の確認）

計96時間(55分授業)

7 課題・提出物等

・小テストの範囲や課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

3年次での学習は、それぞれの進路実現のための学習となります。よって、与えられた課題をただやるだけでなく、今の自分に必要なことを必要なだけ身につける時間の確保、やり方の模索、定着するまでの反復、といったすべてを自律して自分に課してください。自分で考えて自分で学習する生徒になってほしいと思います。「英語」は単なる語学ではなく、自分を表現し自分の世界を広げるための手段です。科目を通して見聞を深めて視野が広がることを望みます。
(担当：新保)

令和6年度シラバス (外国語) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	外国語 (論理・表現Ⅲ)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 (理系)
使用教科書	Harmony 論理・表現Ⅲ (いいずな書店)				
副教材等	自分の力で書く大学入試英作文FINAL DRAFT (いいずな書店)、大事なことから身につける英文コア構文99+α (文英堂)、英単語 Stock 3000 (文英堂)、Vision Quest 総合英語 3rd Edition (啓林館)、UPGRADE 英文法・語法問題 三訂版 (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切に、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いる。</p> <p>(2) 日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、状況に応じて論理の展開や表現の工夫を行い、運用する力を養う。</p> <p>(3) 事前の準備などにおいて、習得したことを活用して、多様な表現で伝えることを目指す。</p>
--

3 指導の重点

<p>①日常で起きた事象や社会的な出来事を読み、要点を捉えて作者の意図を理解し整理すること。</p> <p>②自分の意見を、話したり書いたりといったその場に応じた適切な方法で表現すること。</p> <p>③与えられた課題だけでなく自分から課題を設定し、得意を伸ばし不得意を少しずつ克服すること。</p> <p>④協働学習の中で色々な意見や考えに触れて視野を広げること。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<p>聞く、読む、話す[やり取り・発表]、書くために必要となる語彙や表現を理解している。日常的な話題や社会的な話題についての説明を読み取ったり、情報や考えを理由とともに伝えたりする技能を身につけている。</p>	<p>日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、相手や状況に応じて伝えている。世界の問題について書かれた説明文を読んで、概要や要点を捉えている。</p>	<p>日常的な話題や社会的な話題についての意見や考えを、概要や要点を捉えようとしている。習得したことを基に活用して多様な表現で伝えようとしている。</p>
---	--	---

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 教科書に準拠した初見文の内容の確認 レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 作品制作の表現の観察 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテストの分析 授業中の発言、発表への取組の観察 レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 パフォーマンステスト <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言、発表への取組の観察 レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	L1 自分が住む街について説明する	Lesson 1 My Hometown	自分の街について紹介する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認) 提出物 (記述の確認)
	L2 住んでみたい場所を想像する	Lesson2 The Place I'd like to Live	自分の住んでみたい場所について、スピーチを行う。	4	
	L3 未来の都市計画について考える	Lesson3 The Cities of Future	自分が住んでいる街が主催する「魅力ある未来の街づくりコンテスト」に応募するつもりになって、プレゼンテーションをする。	4	
	L4 気分転換の方法や娯楽について話す	Lesson4 Refreshing Our Minds and Bodies	英文を読んで心と体をリフレッシュさせるための余暇の過ごし方を2種類挙げ、対比させながら話す。	4	

7 8 9	L5 好きなことや得意なことについて話す	Lesson5 Study Struggles	屋外活動と室内活動というテーマでスピーチをする。	4	・ワークシート（記述の確認） ・発表の様子（行動の確認） ・提出物（記述の確認）
	L6 将来のキャリアについて考える	Lesson6 Choosing a Career Plan	「好きなことを仕事にする」「好きなことを仕事にしない」の2つの考え方を比較し、ディスカッションをする。	4	
	L7 世界の異常気象について考える	Lesson7 Extreme Weather around the World	身近な気候変動の兆候について論理的な構成で文章を書く。	5	
	L8 エネルギー問題について考える	Lesson8 Working to Solve Energy Problems	エネルギー問題の解決法について、問題の原因を取り除く方法、新たなシステムや枠組みを提案刷る方法、人々の行動を変容させる方法についてグループでそれぞれアイデアを出し、書く。	5	
	L9 地球の未来について考える	Lesson9 For the Future of Our Planet	水不足の問題に対して、グループでディベートを行う。	5	
10 11 12	L10 買い物を世界経済について話す	Lesson10 What's Ethical Shopping?	食品が食卓に届くまでのプロセスについて調べ、説明をする。	5	・ワークシート（記述の確認） ・発表の様子（行動の確認） ・提出物（記述の確認）
	L11 経済格差について考える	Lesson11 Global Economic Inequality	ソーシャルメディアに投稿された4人の意見を読み、私たちができることについてアイデアを話し合う。	5	
	L12 持続可能な経済成長について考える	Lesson12 Sustainable Economic Growth	「持続可能な経済成長に向けて」というテーマで短いスピーチを行い、ポスターを作成する。	5	
1 2 3	実践演習		1年間学習した内容を元に、様々な英文を扱い運用できる力を養う。	10	・ワークシート（記述の確認） ・発表の様子（行動の確認） ・提出物（記述の確認）

計64時間(55分授業)

7 課題・提出物等

・小テストの範囲や課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

3年次での学習は、それぞれの進路実現のための学習となります。よって、与えられた課題をただやるだけでなく、今の自分に必要なことを必要なだけ身につける時間の確保、やり方の模索、定着するまでの反復、といったすべてを自律して自分に課してください。自分で考えて自分で学習する生徒になってほしいと思います。「英語」は単なる語学ではなく、自分を表現し自分の世界を広げるための手段です。科目を通して見聞を深めて視野が広がることを望みます。

(担当：新保)

教科(科目)	家庭 (保育基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(文系)
使用教科書	実教出版 家庭707『保育基礎』				
副教材等	『保育基礎』準拠学習ノート (実教出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3 指導の重点

- ①保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉・文化などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ②子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を育てる。
- ③子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。 ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心を持ち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与する意欲的な態度を身につけようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 ・授業中の発言、発表や話し合いへの取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や、発表や話し合い、実験、実習への取り組みの観察 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	第1章 子どもの保育	保育の意義	・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。	2	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
		保育の環境	・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。	4	
		保育の方法	・子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。	4	
6 7	第2章 子どもの発達	子どもの発達の特 性	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。	5	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み ・定期考査
		子どものからだの 発達 子どもの心の発達	・子どもの生理的特徴について理解する。 ・乳児期・幼児期における感覚・運動機能、情緒、認知機能、言語、社会性の発達の特長について理解する。	7	
8 9 10 11	第3章 子どもの生活	子どもの生活と養 護	・子どもを安全に養護するためのポイントや、注意点について知る。 ・子どもの食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。 ・幼児食実習や幼児用おやつづくりなど、実習を通じて子どもをイメージする。 ・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。	12	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み ・作品製作 ・定期考査
		生活習慣の形成	・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。	5	
		健康管理と事故防 止	・子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を知る。 ・住まいの潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考えることができる。	7	
12 1	第4章 子どもの文化	子どもの文化の意 義と支える場	・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。	4	・授業の取り組み ・ワークシート ・作品製作 ・定期考査
		子どもと遊びと表 現活動	・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通じて理解する。 ・子どもの遊びに対する、保育者としての適切なかわり方を理解する。 ・子どもの表現活動によって培われる能力について知り、表現活動の重要性や意義を理解する。	12	

	第5章	子ども観	・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。		
2	子どもの福祉	子どもの福祉	・子どもの福祉の理念について理解し、歴史的な経緯を知る。	2	・授業の取り組み
3		子育て支援	・子育て支援について理解し、地域の支援策について知る。		・ワークシート ・定期考査

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元毎に振り返りシートの記入、学習ノートの提出があります。
- ・実習後のレポート等、タブレットによるデータ提出があります。

8 担当者からの一言

「保育基礎」は自分自身の成長の過程を振り返り、人が人として成長することの奥深さや豊かさを感じ、将来子どもを生き育てることの意義を考えていく科目です。また職業として子どもに関わる保育者の視点からも、子どもの発達や子どもの保育について考えていきましょう。

教科(科目)	フードデザイン	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(文系)
使用教科書	教育図書 702『フードデザイン』				
副教材等	『フードデザイン』準拠学習ノート(教育図書)、ビジュアルクッキング(教育図書) 生活学Navi 2023 資料+成分表(実教出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切に、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を見出し、思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	食生活に関する諸問題に関心をもち、自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 ・授業中の発言、発表や話し合いへの取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や、発表や話し合い、実験、実習への取り組みの観察 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7 8	第1章 健康と食生活	食事の意義と役割	・食べることは生きるための意味合いだけでなく、さまざまな役割があることを理解するとともに、家族や仲間と共に食事する意義を知る。	15	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
		食を取り巻く現状	・朝食の欠食や肥満・やせなどの問題を、青年期の食生活と関連づけて考える。 ・食生活の変化に目を向け、食事の外部化について理解する。 ・食生活と生活習慣病の関係を理解し、どのような点に注意すればよいかを考える。		
	第2章 栄養素と食品	栄養素と消化	・日々の食生活から消化・吸収された栄養素が私たちのからだをつくっていることを理解する。 ・五大栄養素それぞれのもつ特有のはたらきについて理解する。	22	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
		各栄養素のはたらき	・五大栄養素の種類と役割、代謝について理解する。 ・水の役割とファイトケミカルについて理解する。		
		食品とその特徴	・さまざまな食品について、それぞれの特徴とその調理性、加工について理解する。 ・加工食品や健康食品などの食品について正しい知識を身に付ける。		
	第3章 食品の選択と取り扱い	食品選択のコツ	・食品に記載された情報の正しい見方を知り、食品選択に役立てることができるようになる。 ・食物アレルギーについて理解する。	15	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
		食品の衛生と安全	・食中毒の種類や危険性について知り、適切な予防ができるようになる。		
	第4章 調理してみよう	調理操作と調理器具	・非加熱操作と非加熱調理の種類、加熱操作・加熱調理の種類と、用いる調理器具について知る。 ・調理器具の特徴としくみを理解し、正しく使用できるようになる。	7	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
	実践編	献立と調理	・食事テーマを設定し、それに応じた献立を具体的に考える。 ・和風料理、洋風料理、中国料理、多国籍料理、行事食など、さまざまな献立に組み、調理技術を習得する。	23	・授業の取り組み ・実習レポート ・定期考査

第5章 各国料理とコー ディネート	料理の様式	<ul style="list-style-type: none"> 各様式別料理の特徴を理解する。 各様式の献立構成、食卓構成、作法を理解する。 各様式に適した献立作成や供応に伴うマナーやサービスの技術を身に付ける。 	7	<ul style="list-style-type: none"> 授業の取り組み ワークシート 定期考査
	テーブルコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> テーブルコーディネートの基本をふまえ、食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や環境作りの技術を身に付ける。 各様式別料理のテーブルコーディネートの基本を理解し、実践できるようにする。 		
第6章 食育と食育推進 活動	食育推進の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 現代の食生活を見直すために、食育の大切さを理解する。 食育について、家庭・学校・地域・企業それぞれの取り組みについて知り、主体的に取り組むことができるようになる。 	7	<ul style="list-style-type: none"> 授業の取り組み ワークシート 定期考査
	食文化を見つめる	<ul style="list-style-type: none"> 食は生活と密着したものであり、地域やライフスタイルに合わせて多様な文化を作り上げてきたことを知る。 郷土料理など、日本の食文化について知り、継承の担い手としての意識をもつ。 		
	食と環境について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食料自給率の現状と問題点について理解する。 食品ロスの影響を理解し、自分や社会が取り組むべき問題について考える。 		

計96時間(55分授業)

7 課題・提出物等

- 単元毎に振り返りシートの記入、学習ノートの提出があります。
- 実習後のレポート等、タブレットによるデータ提出があります。

8 担当者からの一言

- 学習ノートや実習レポートの提出は、丁寧に取り組み、期限を守りましょう。
- 授業を通して自分自身の食生活を見直すと共に、現代の食における課題について考えを深めましょう。
- 実習の授業では、安全に進められるように細心の注意を払い、積極的に活動しましょう。

教科(科目)	体育(スポーツⅡ)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
副教材等	大修館書店 新高等保健体育ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<ol style="list-style-type: none"> 球技を通し運動の合理的、計画的な実践を通して、知識と技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わう。 球技を通し運動について自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決にむけて思考判断する。 球技を通し生涯にわたって継続して運動に親しみ、明るく活力のある生活を営む資質や能力を養う。
--

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> 各領域において、運動の特性に触れさせ、その楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 健康や安全についての理解を深め、内容や環境に応じて、適切に取り組むことができるようにする。 周囲に配慮し、仲間と協力しながら取り組むことができるようにする。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組みの状況 提出課題の記述内容 スキルテストやゲームにおける動き 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組みの状況 提出課題の記述内容 グループ活動での発言や指示の内容 活動における練習の工夫やゲームにおける動き 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 学習活動への取り組みの状況 振り返りシート

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 5	体づくり運動	12	集団行動 体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 集合、整列、列の増減、挨拶 学校体操 体ほぐしの運動 体力を高める運動 	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)

6 7	1期 ゴール型 (男女)	24	サッカー	<p>○個人的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なボールの扱い方 ・ドリブル、パス ・トラッピング ・シュート <p>○集団的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジアンドカバー ・クロスからのシュート ・ワンツーパスからのシュート ・ボールを持っている人に 選択肢を与える。(増やす) <p>○ゲーム</p>	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
8 9 10	Ⅱ期 ベースボール型 (男女)	24	ソフトボール	<p>○個人的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバースロー ・サイドスロー ・キャッチボール ・バッティング <p>○集団的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シートノック・送球練習 <p>○ゲーム</p>	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
11 12	Ⅲ期 ネット型 (男女)	24	バドミントン	<p>○個人的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーヘッド ・フォアハンド ・バックハンド ・サーブ <p>○ストローク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ <p>○ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム 	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
1	球技 ゴール型 (男女)	12	バスケットボール	<p>○個人的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パス ・キャッチ ・ドリブル ・シュート <p>○集団的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンツーマンディフェンス ・ゾーンディフェンス <p>○ゲーム</p>	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)

計96時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

振り返りシート

8 担当者からの一言

- ⑤ 「できない」だけでなく、「できるように励むこと」が評価に大きく関わるため、授業については積極的に活動すること。
- ⑥ 授業はチャイムと同時に開始するので、着替えや活動場所への移動は休み時間内に完了しておくこと。
- ⑦ 体育の授業は出席してしっかり参加することを前提とする。体調不良の場合や怪我で参加できない場合は、担当者に相談し判断する。見学の際は見学届けの記入をすること。
- ⑧ 同じ種目は選択できません